

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type - SG • User's Manual

オフィスシリーズ Type - SG

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。

必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、

取り付け可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や

インストール方法について説明しています。

ご使用の前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告

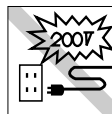
煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。
お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



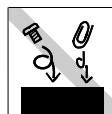
表示されている電源(交流100V)以外では使用しないでください。
指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



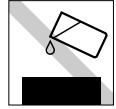
通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



⚠ 警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

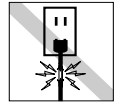
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンター
または修理センターにご相談ください。



破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。
電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・ 電源コードを加工しない。
- ・ 無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・ 電源コードの上に重いものを載せない。
- ・ 熱器具の近くに配線しない。

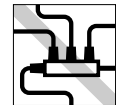
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談く
ださい。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

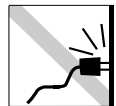
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでくださ
い。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。

感電の原因となります。



⚠ 注意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



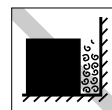
⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

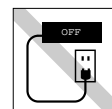


本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
次のような場所には設置しないでください。

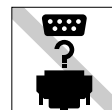
- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところ。
- ・じゅうたんや布団の上
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



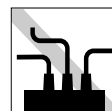
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。



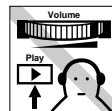
拡張カードやDIMMの取り付け・取り外し、内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



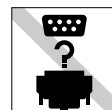
ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。



ゲームポート/MIDIコネクタの形状は、日本電気（株）製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。
誤ってディスプレイをゲームポート/MIDIコネクタに接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。



使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクドライブなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

コンピュータに拡張カードを装着して機能を拡張する方法について説明します。

BIOSの設定

「BIOS Setupユーティリティ」を使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

付録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、ハードディスクドライブを購入時の状態に戻す方法や仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について (7)

製品保護上の注意 (9)

使用・保管時の注意 (9)

記録メディア (10)

マウス (11)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に 2

コンピュータを使い始めるまでの手順 .. 2

ご使用前の確認事項 3

システムの特長 4

添付されているソフトウェア 5

各部の名称と働き 6

本体前面 6

本体背面 7

コンピュータの設置 8

電源の入れ方とWindowsのセットアップ 16

Windowsを使用できるように
なるまでの作業 16

電源を入れる前に 17

電源の入れ方とWindowsの起動 18

Windows使用時の確認事項 19

WindowsMeインストールモデルの セットアップ 21

WindowsMeのセットアップ 21

セットアップ終了後の作業 24

Windows98インストールモデルの セットアップ 25

Windows98のセットアップ 25

セットアップ終了後の作業 28

Windows2000インストールモデルの セットアップ 29

Windows2000のセットアップ 29

セットアップ終了後の作業 31

電源の切り方 34

WindowsMeの終了と電源の切り方 .. 34

Windows98の終了と電源の切り方 ... 35

Windows2000の終了と電源の切り方 ... 35

リセット 36

コンピュータの基本操作

キーボードを使う 38

キーの種類と役割 38

文字を入力するには 39

日本語を入力するには 39

キーロック表示ランプ 40

FnキーとWindowsキー 41

マウスを使う 42

マウスの操作 42

マウスの設定変更 42

FDD (フロッピーディスクドライブ) を使う 43

FDのセットと取り出し 44

FDのフォーマット 45

データのバックアップ 46

ライトプロテクト (書き込み禁止) .. 46

1.25MBのFDを使用する 47

HDD (ハードディスクドライブ) を使う 48

HDDのバックアップ 48

購入時のHDD領域について 48

CD-ROMドライブを使う	49
CD-ROMのセットと取り出し	49
強制的なCD-ROMの取り出し	50
解像度や表示色を変更する	51
WindowsMeの場合	52
Windows98の場合	54
Windows2000の場合	56
FAXモデムを使う （FAXモデム機能搭載モデル）	58
お使いになる前に	58
インターネットに接続するには	60
ダイヤルするための準備	63
オンラインでプロバイダと契約する	63
手動でダイヤルアップ接続の設定をする .	65
インターネットへの接続と切断	67
Internet ExplorerとOutlook Expressの 使い方	69
Internet Explorerの使い方	69
Outlook Expressの使い方	71
省電力機能	73
省電力機能の種類	73
実行方法	75
復帰方法	76
その他の機能	77
サウンド機能	77
ネットワーク機能	78
パラレルコネクタ	78
シリアルコネクタ	78
USBコネクタ	79
コンピュータウィルスの検索・駆除	79

システムの拡張	
拡張できる装置	82
作業時の注意	83
本体カバールの取り外し・取り付け	84
本体カバールの取り外し・取り付け ..	84
DIMMの増設	86
DIMMの仕様	86
DIMMの取り付け	87
拡張カードの装着	89
拡張スロットの仕様	89
拡張カードの取り外し・取り付け ..	90

BIOSの設定	
BIOSの設定を始める前に	94
BIOS Setupユーティリティの操作	95
BIOS Setupユーティリティの起動	95
BIOS Setupユーティリティの操作	96
設定値をもとに戻すには	98
BIOS Setupユーティリティの終了	99
BIOS Setupユーティリティの設定項目	100
Mainメニュー画面	100
Passwordの設定	102
Advancedメニュー画面	104
Powerメニュー画面	106
Bootメニュー画面	108
Exitメニュー画面	109
BIOSの設定値	110

こんなときは

困ったときに	114
コンピュータ本体の不具合	114
省電力機能に関する不具合	116
キーボードの不具合	117
マウスの不具合	118
ディスプレイの不具合	119
FDDの不具合	121
HDDの不具合	122
CD-ROMドライブの不具合	123
アプリケーションソフトの不具合	124
メモリの不具合	125
拡張カード、周辺機器の増設に 関する不具合	125
プリンタの不具合	126
スピーカの不具合	126
FAXモデムの不具合 (FAXモデム機能内蔵モデル)	127

警告メッセージが表示されたら	130
----------------	-----

付録

お手入れ	134
本機のお手入れ	134
マウスのお手入れ	134

リチウム電池の交換	136
-----------	-----

CMOS RAMの初期化	139
--------------	-----

ATコマンドの仕様 (FAXモデム機能搭載モデル)	141
--------------------------------	-----

FAXモデムカードを取り外すには (FAXモデム機能搭載モデル)	142
---------------------------------------	-----

FAXモデムカードの取り外し	142
----------------------	-----

HDDを購入時の状態に戻す	144
---------------	-----

必要なメディア	144
HDDを購入時の状態に戻す順番 ...	145
HDDを購入時の状態に戻す前の注意 ..	146
リカバリの実行	148
マウสดライバのインストール	150
FAXモデムドライバのインストール (WindowsMeインストールモデル).....	151
FAXモデムドライバのインストール (Windows98インストールモデル).....	152
FAXモデムドライバのインストール (Windows2000インストールモデル)	153
各種ドライバのインストール	154

HDD領域の変更	155
----------	-----

MS-DOS領域の種類	155
HDD領域の変更	156
既存領域の削除	158
MS-DOS領域の作成	160
MS-DOS領域のフォーマット	163

コンピュータ内部のケーブル接続	164
-----------------	-----

機能仕様一覧	167
--------	-----

用語集	168
-----	-----

索引	175
----	-----

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



1 2

Ctrl

Ctrl + Z

制限事項です。

機能または操作上の制限事項を記載してあります。

参考事項です。


覚えておくとお利便なことを記載してあります。




説明文が次ページに続くことを示します。



参照ページを示します。

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

はEnterキーを表します。また、は のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。

+ の前のキーを押したまま + の後のキーを押します。
この例では、を押したまま を押します。

名称の表記

本書ではコンピュータに関連する製品の名称を次のように表記します。

HDD

FD

FDD

ハードディスクドライブ

フロッピーディスク

フロッピーディスクドライブ

オペレーションシステムに関する記述

本書では、オペレーションシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows Me

Windows 98

Windows 2000

MS-DOS

Microsoft® Windows® Millennium Edition

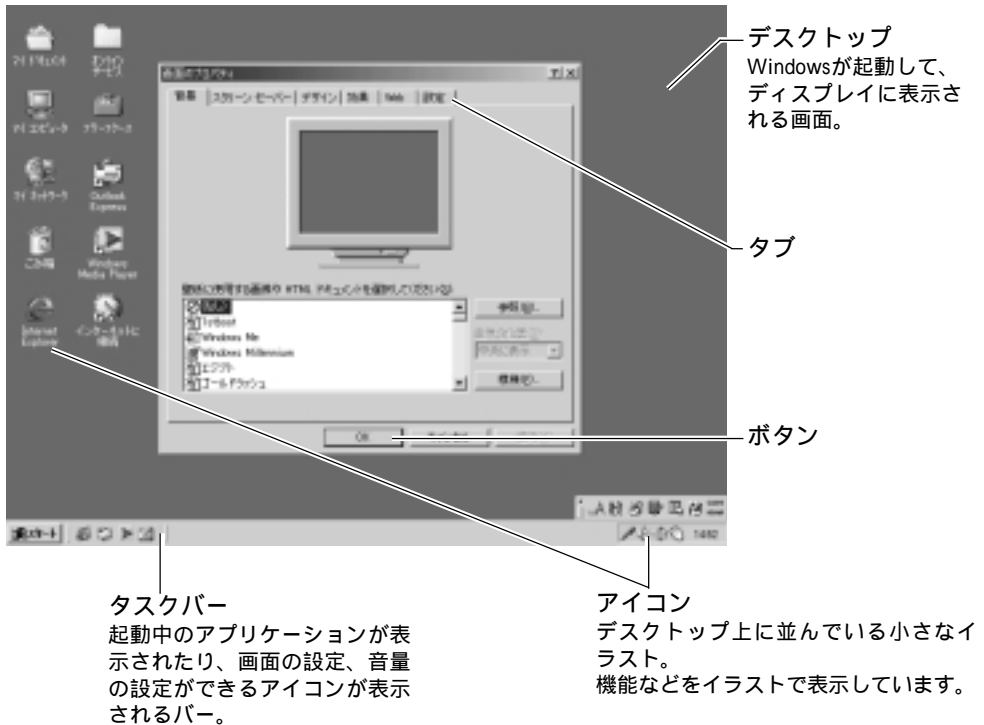
Microsoft® Windows® 98 Operating system

Microsoft® Windows® 2000 Professional

Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V

Windowsの画面表示に関する記載方法


本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

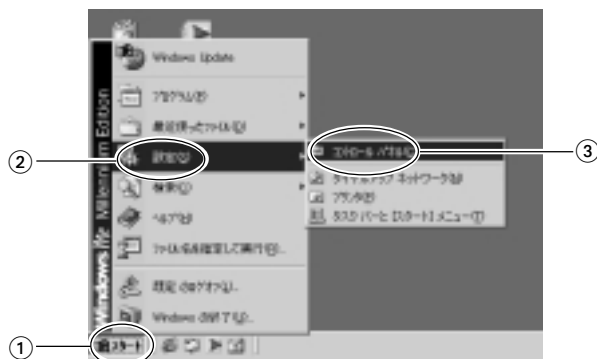


Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] をクリックします。

実際の操作 :  スタート をクリックします。



記載例 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

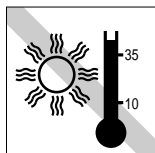
② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

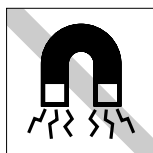
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

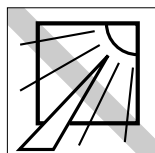
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱いってください。



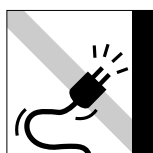
温度が高すぎる所や、温度が低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ~ 35 です。



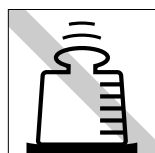
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



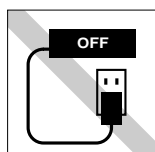
電源ケーブルが抜けやすい所（ケーブルに足が引っかかりやすい所や、ケーブルの長さがぎりぎりの所など）にコンピュータを置かないでください。
電源ケーブルが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。
機材の上に載せられるディスプレイの重さは20kgまでです。



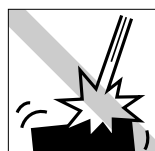
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



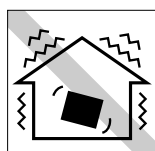
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。
内蔵の周辺機器（HDD、CD-ROMドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



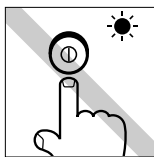
コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。
FD、CD-ROMなどは抜き、配線ケーブルは取り外してください。



アクセスランプ点灯中は、コンピュータの電源スイッチを押したり、リセットしないでください。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

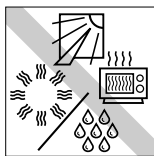
FD

CD-ROM・CD-R・CD-RW・DVD-ROMなど

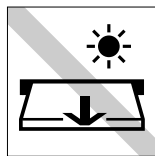
FD

CD

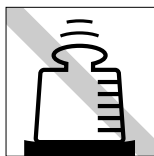
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



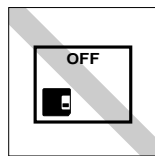
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



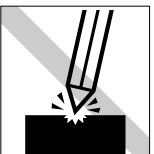
アクセスランプ点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源スイッチを押したり、リセットをしないでください。



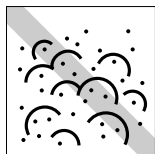
上に物を載せないでください。



使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



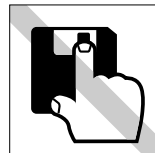
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

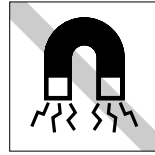


アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。

FD

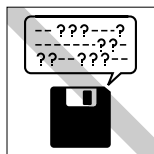


磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD

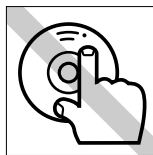


テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD



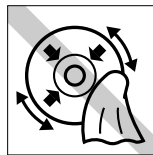
何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。FD



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。CD



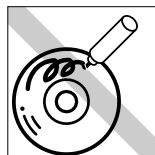
レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。CD



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。CD



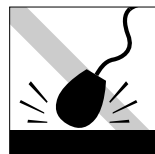
CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。CD



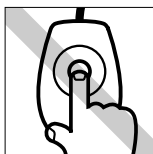
信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。CD

マウス

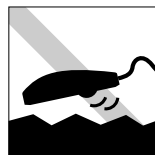
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



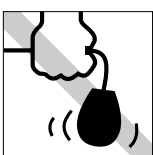
落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



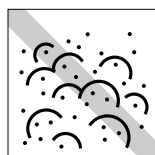
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

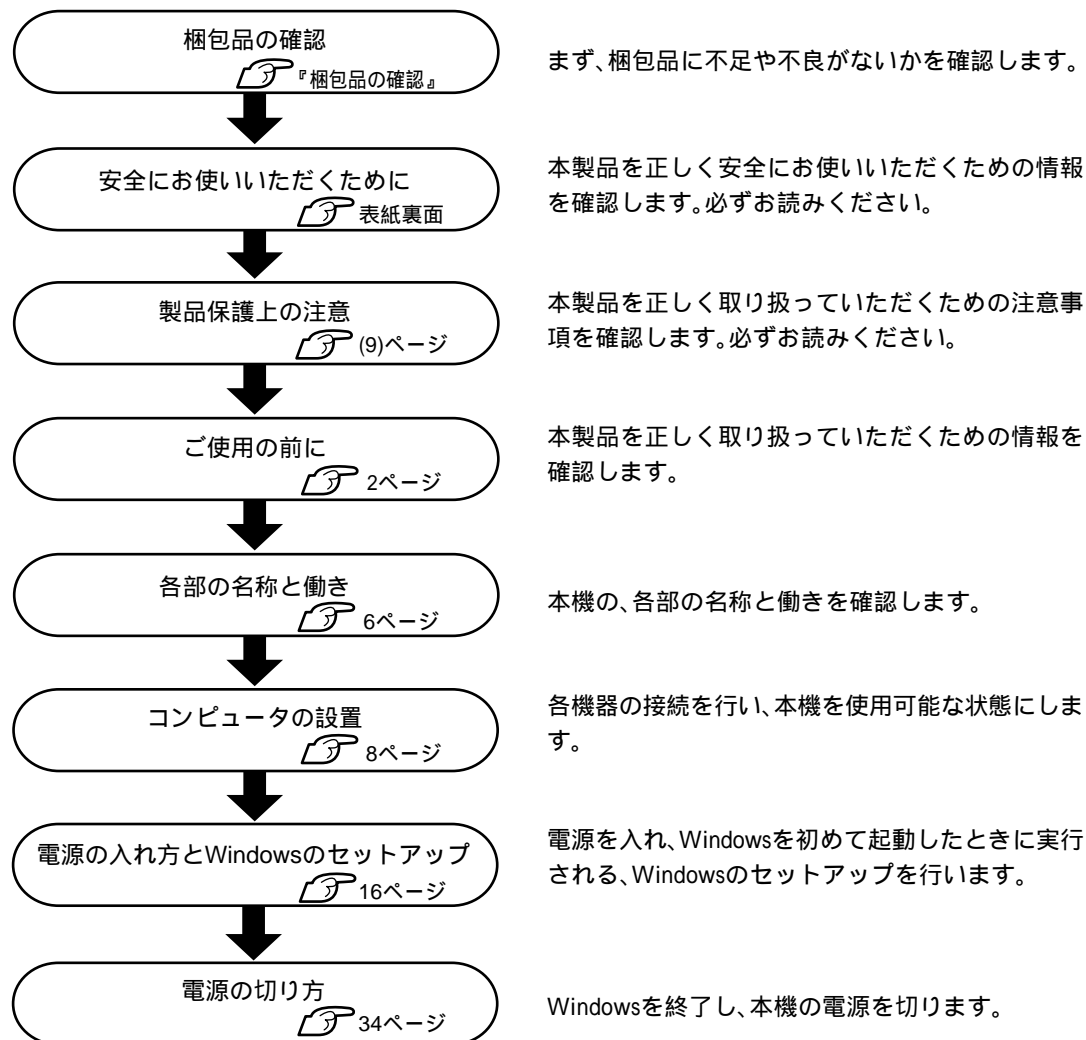
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



ご使用の前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

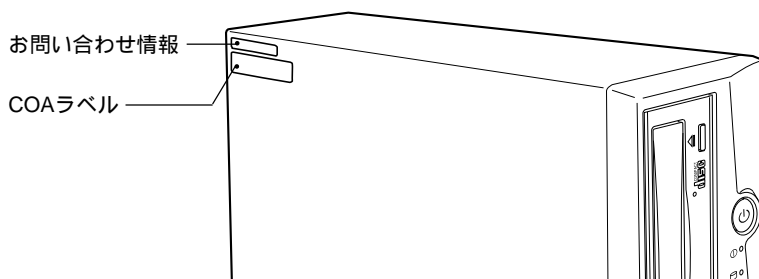
お問い合わせ情報

お問い合わせ情報には、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

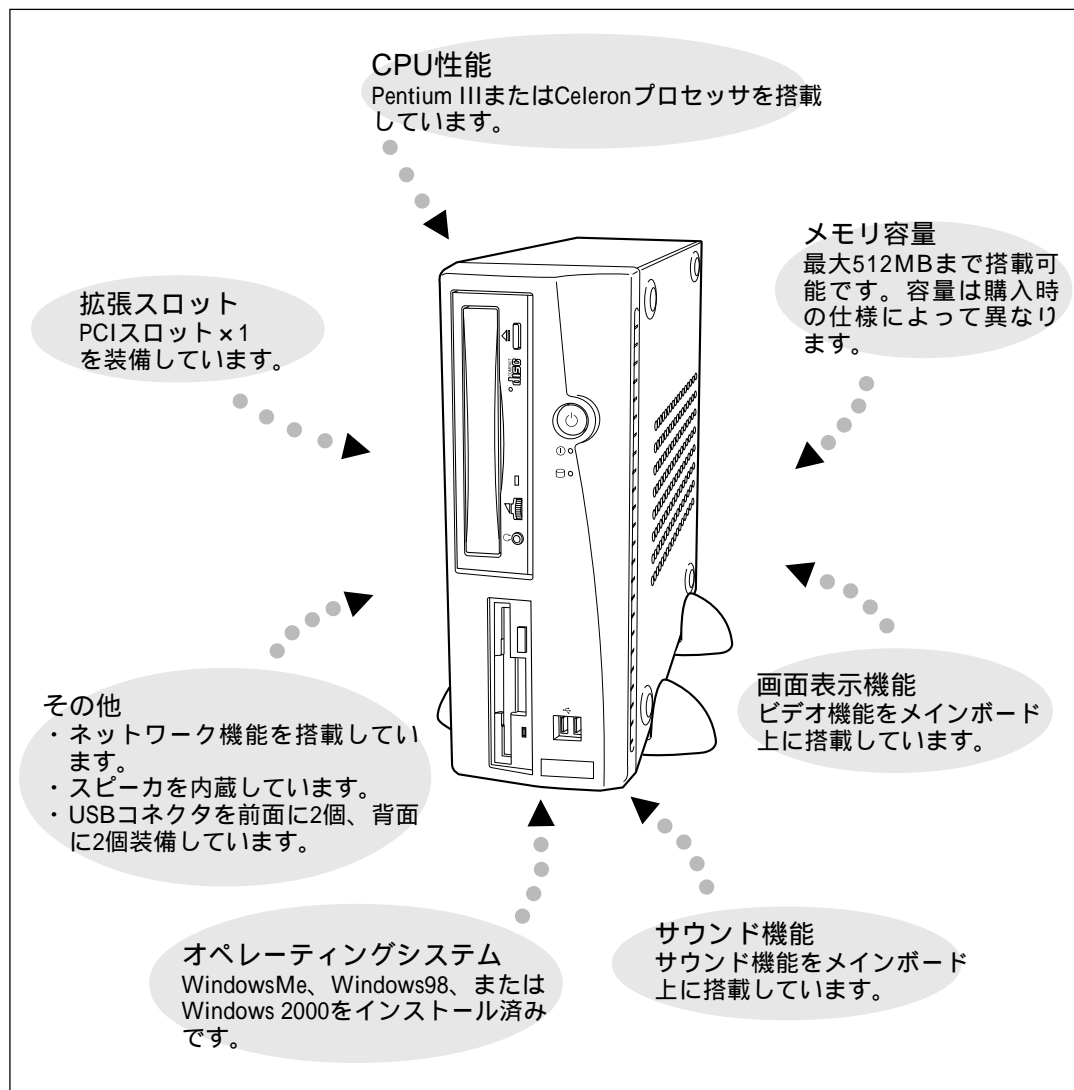
COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindowsを購入されたことを証明するラベルです。絶対にはがさないでください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。



添付されているソフトウェア

本機に添付されているソフトウェアは次のとおりです。

表中記号の見方



購入時にHDDにインストールされています。



購入時にインストールされていません。Windowsのセットアップ後にインストールしてください。

リカバリCDに登録されているソフトウェア

Windows

Windowsは最新のものがインストールされています。

Windows Me/Windows 2000

『クイックスタートガイド』

Windows 98

『ファーストステップガイド』



ディスプレイドライバ

Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。



サウンドドライバ

音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。



3モードFDDドライバ

1.25MBフォーマットのFDを読み書きするためのデバイスドライバです。



ネットワークドライバ

ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。



モデムドライバ(FAXモデム機能搭載モデル)

FAXモデム機能を使用するためのデバイスドライバです。



Adobe Acrobat Reader

様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。



専用のCDが添付されているソフトウェア

VirusScan for Windows

最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。

CD名: 「ユーティリティCD」



マウスドライバ

ホイール付きPS/2マウスを使用するためのデバイスドライバです。

CD名: 「マウスドライバCD」



バックアップディスクを作る

マニュアル(PDFファイル)

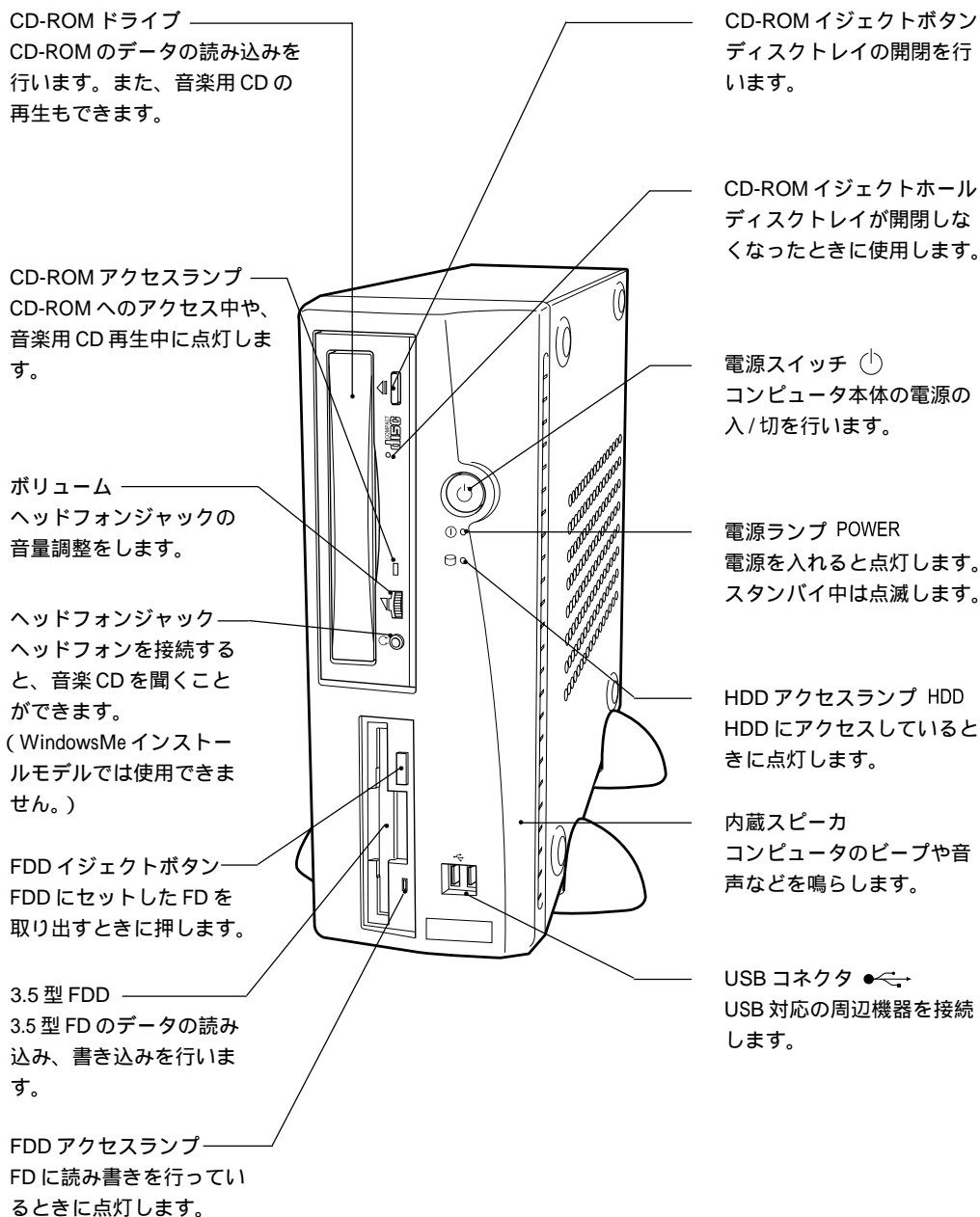
『ユーザーズマニュアル(本書)』がデスクトップ上でいつでも見られるようにPDF化されています。



購入時の仕様によっては、上記以外にもバックアップディスクを作成する必要があります。

各部の名称と働き

本体前面





本体背面





ゲームポート/MIDIコネクタの形状は、日本電気(株)製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。


誤ってディスプレイをゲームポート/MIDIコネクタに接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。


キーボードコネクタ 
キーボードを接続します。


USB コネクタ 
USB 対応の周辺機器を接続します。

シリアルコネクタ 
モデムなど、RS-232C インターフェイスに対応した機器を接続します。


VGA (モニタ) コネクタ 
アナログ方式のディスプレイを接続します。


ライン出力コネクタ 
アンプ内蔵スピーカなどを接続します。


ライン入力コネクタ 
オーディオ機器の出力信号線を接続します。


マイク入力コネクタ 
マイクを接続します。


電源コネクタ
添付の電源コードを接続して電気を供給します。

ヘッドフォン出力コネクタ 
ヘッドフォンを接続します。


マウスコネクタ 
PS/2 マウスを接続します。


ネットワークコネクタ 
ローカルエリアネットワーク接続用のコネクタです。

パラレルコネクタ 
プリンタやスキャナなどを接続します。

ゲームポート/MIDIコネクタ 
ジョイスティックなどを接続します。

拡張スロット
拡張カードを装着します。

LINE モジュラジャック 
(FAX モデム機能搭載モデル)
電話回線と接続します。

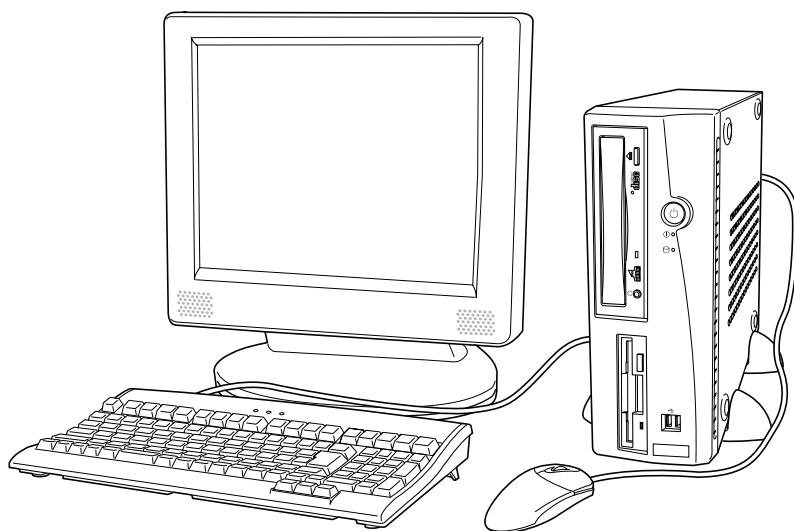
PHONEモジュラジャック 
(FAX モデム機能搭載モデル)
電話機と接続します。

冷却ファン
内部で発生する熱を逃がします。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。次のような場所には設置しないでください。
 - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところ
 - ・じゅうたんや布団の上
 - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカはボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

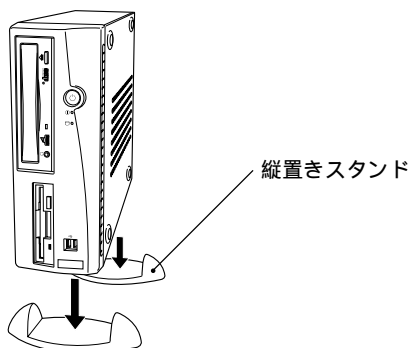
設 置

1

本体に縦置きスタンドをセットします。

本機を横置きで使用する場合はこの作業は必要ありません。

- ① 電源スイッチ側を上にして、縦置きスタンドにセットします。
- ② 本体が安定するようにスタンドの位置を調節します。

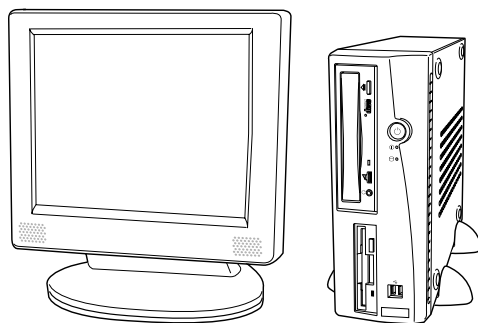


制限

本機を縦置きで使用する場合は、必ず電源スイッチ側を上にして設置してください。電源スイッチ側を下にして設置すると、コンピュータが正常に動作しない場合があります。

2

コンピュータとディスプレイを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。



制限

本機を横置きで使用する場合、本機の上に載せられるディスプレイの重さは20kgまでです。

それ以上の重さのディスプレイは載せないでください。

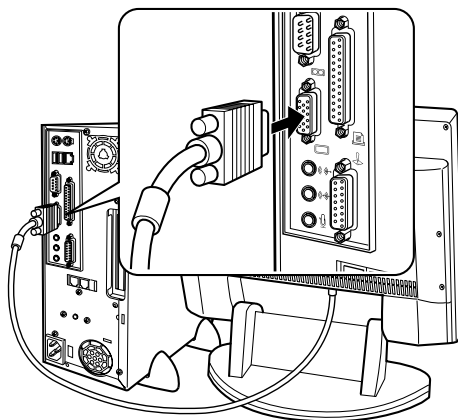
ディスプレイの接続

以下では、一般的なアナログ方式のディスプレイの接続方法について説明しています。

ディスプレイの接続方法と注意事項については、ご使用になるディスプレイに添付のマニュアルに従ってください。

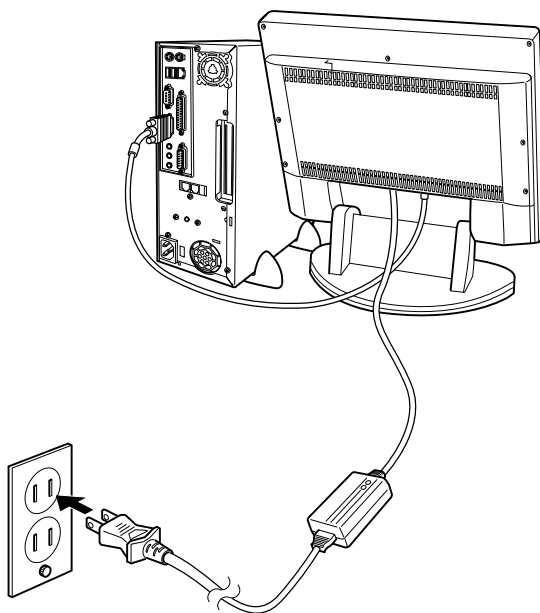
3

ディスプレイの接続コードを、本機背面のVGA(モニター)コネクタに接続します。



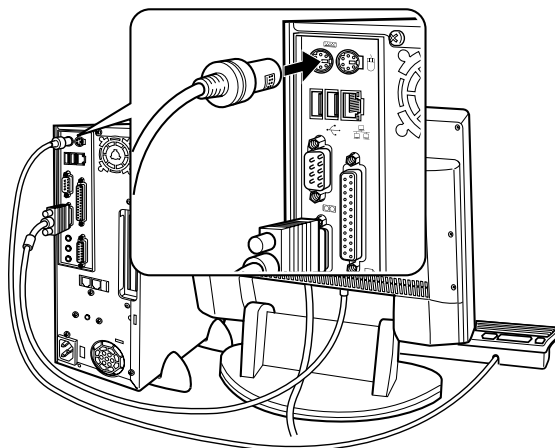
4

ディスプレイの電源コードをディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。



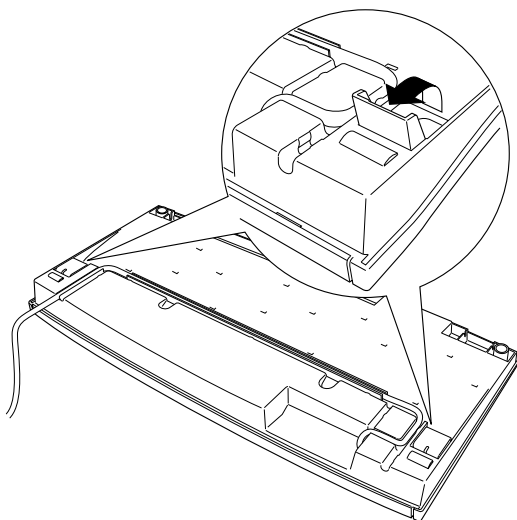
キーボードの接続

- 5** キーボードケーブルのコネクタを本機のキーボードコネクタ(紫色)に差し込みます。



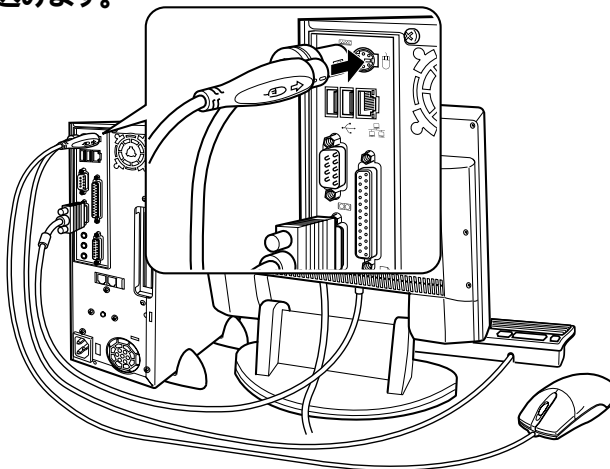
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは両端の脚を起こす。
- キーボードコードを、左右どちらかの底面の溝から引き出します。



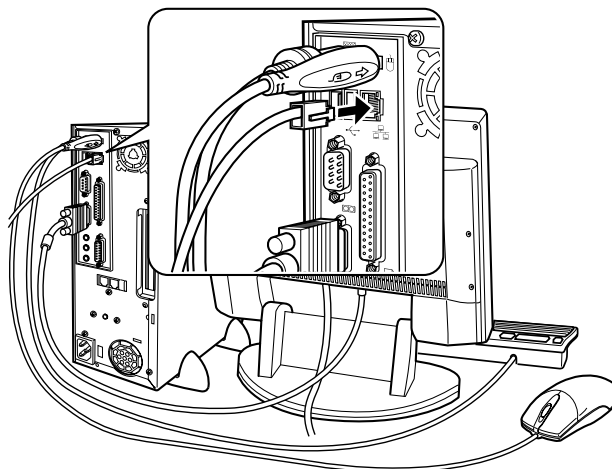
マウスの接続

- 6** マウスケーブルのコネクタを本機のマウスコネクタ(緑色)に差し込みます。



ネットワークへの接続

- 7** ネットワーク用ケーブルをネットワークのコネクタに接続します。
ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。

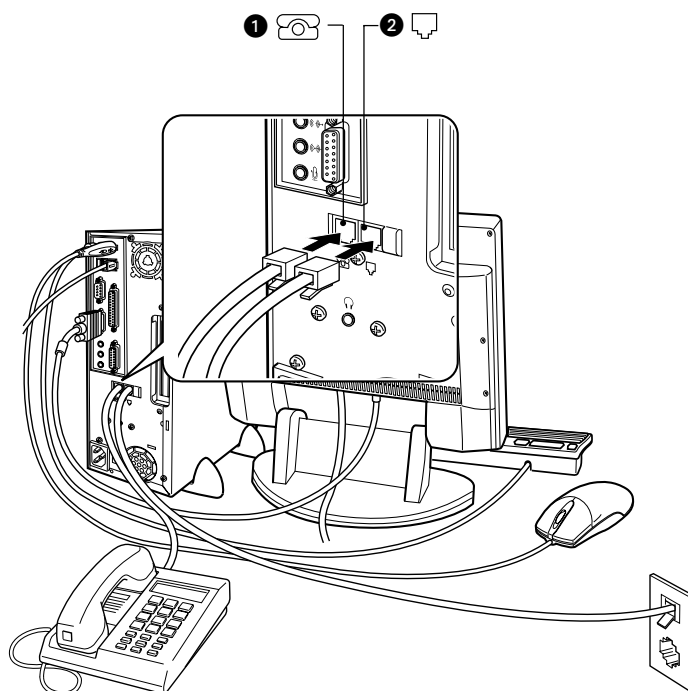


8

FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、電話回線への接続を行います。

使用している回線や、電話機によっては接続ができないことがあります。p.58「FAXモデムを使う」をご覧ください。

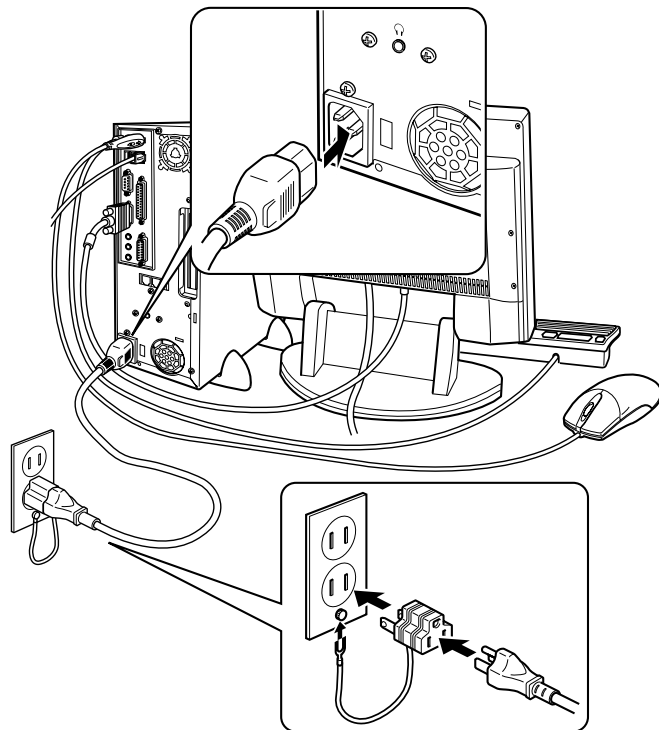
- ① 電話機のモジュラコードをモデムのPHONEモジュラジャックに接続します。
- ② 屋内配線のモジュラコネクタとモデムのLINEモジュラジャックを付属のモジュラコードで接続します。



9

家庭用電源コンセントに、添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、電源コードを接続します。

アース端子がついているコンセントの場合は、電源コードのアース線を接続してください。



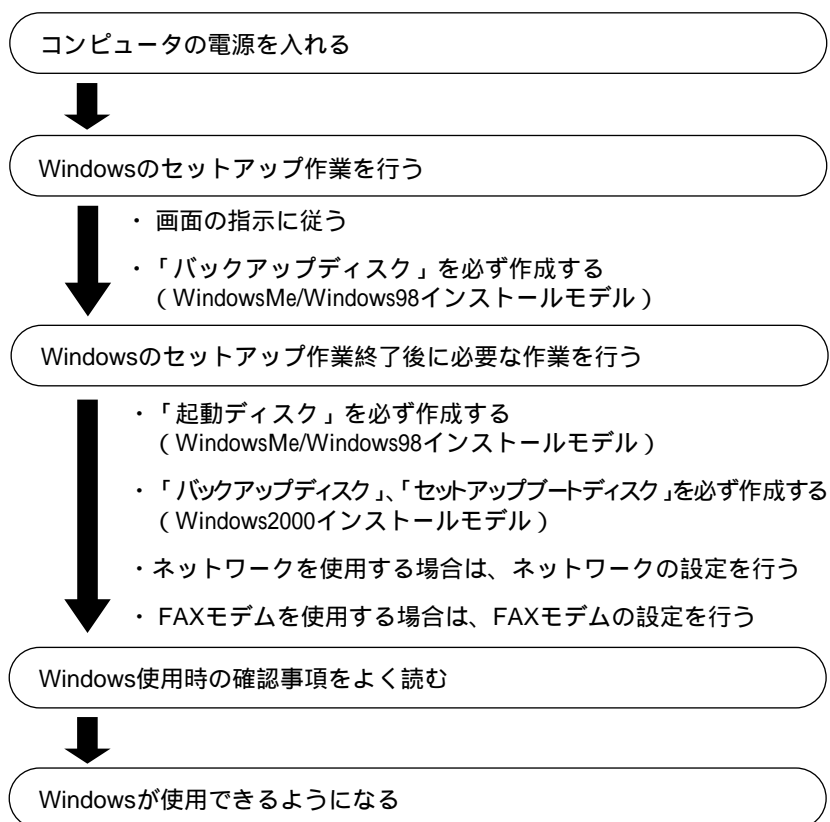
これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、コンピュータを購入後に、はじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業を説明します。

Windowsを使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。詳細は、次ページからの手順に従って作業を行ってください。



電源を入れる前に

Windowsの
セットアップとは

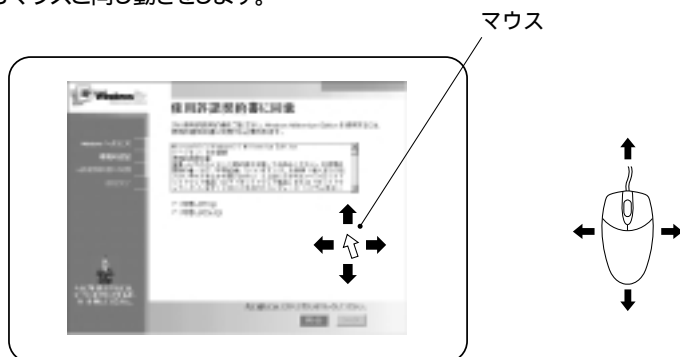
「Windowsセットアップ」は、お使いになるお客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行うプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に実行できます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスで行います。
セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタもマウスと同じ動きをします。

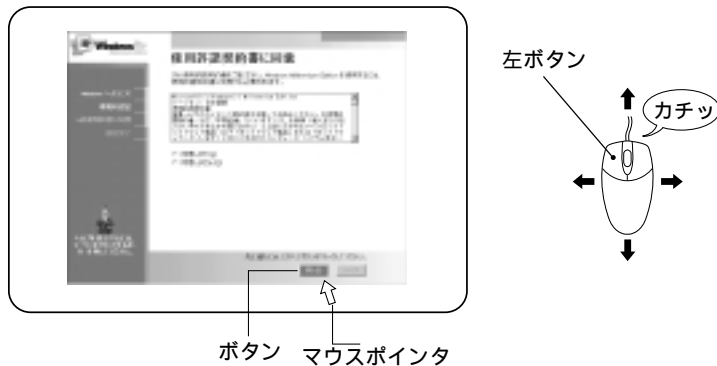


ボタンをクリックする

- ① マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- ② マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

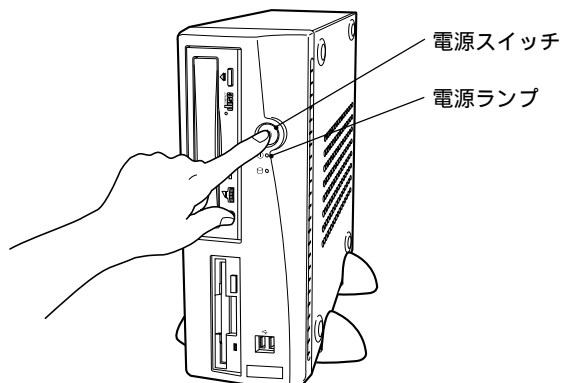
ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



電源の入れ方とWindowsの起動


本体の電源の入れ方は、次のとおりです。


- 1 ディスプレイの電源を入れます。
- 2 本体の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。




- 3 画面にコンピュータの仕様などが表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

続けてWindowsのセットアップを行います。

Windows Meインストールモデル  p.21

Windows 98インストールモデル  p.25

Windows 2000インストールモデル  p.29

電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は、次の事項を確認してください。

電源ランプが点灯しない場合

電源コードが正しく接続されているか確認してください。

画面に何も表示されない場合

ディスプレイが正しく接続され、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

Windows使用時の確認事項


セットアップ作業が終了したら、次の事項の確認と設定を行ってください。

2回目以降に 電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。

省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうないように注意してください。

 p.73「省電力機能」

電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。

電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

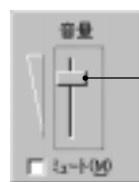
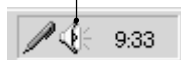
コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には、次のように音量を調節します。

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカー」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。

「スピーカー」アイコン




つまみ

ボリュームコントロール

省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合、キーボードのスペースキーを押すと、もとに戻ります。

 p.73「省電力機能」

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

WindowsMe/Windows98インストールモデルの場合

C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows2000インストールモデルの場合

C:\¥I386(Iはアルファベット)

上記フォルダは、購入時には、Cドライブに保存されています。

これらのフォルダは、デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

ドライブ	ファイルシステム
すべての領域 (C ドライブ)	FAT32

コントロールパネルの表示
(WindowsMe のみ)

購入後に初めて「コントロールパネル」を開くと、下図左側の画面が表示されます。この表示は、よく使うアイコンのみを表示しています。マニュアル中に記載されている各種設定を行うときに、必要なアイコンが表示されない場合は、画面左側の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックします。



WindowsMeインストールモデルのセットアップ

本章では、WindowsMeインストールモデルのセットアップ方法について説明します。

WindowsMeのセットアップ

WindowsMeインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「WindowsMeセットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ



セットアップを続行するには、「次へ」をクリックします。

使用許諾契約に同意



画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

設定が完了しました



Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックし、セットアップを続けてください。


お知らせの確認



本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。すべて読み終わったら[OK]をクリックします。

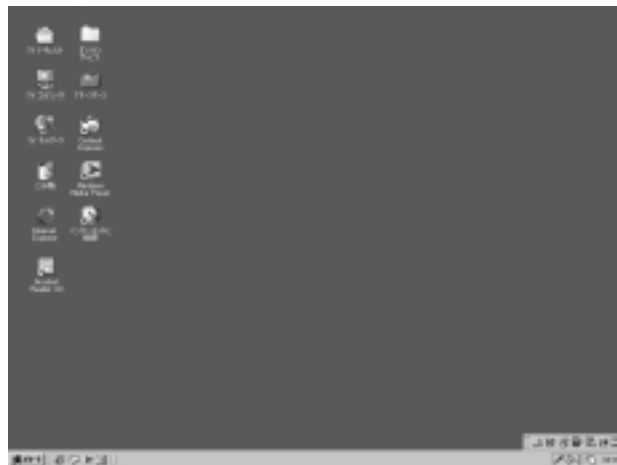
バックアップディスクの作成

「作成するディスクセットの選択」画面に表示されたディスク名のバックアップディスクを作成します。

 p. 23「バックアップディスクの作成」



2 Windows Meのデスクトップが表示されます。



これでWindows Meのセットアップは終了です。
続けてp.24「セットアップ終了後の作業」を行います。

バックアップ ディスクの作成

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。マニュアルディスクのほかに、「リカバリCD」には登録されていない最新のドライバなどのバックアップディスクを作成する場合があります。



制限

バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしたり、リカバリを実行したりしてしまうとバックアップディスクが作成できません。
バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアの再インストールができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」画面が表示されます。
- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。画面の説明に従ってバックアップディスクを作成します。
- 3 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。



p.46「ライトプロテクト(書き込み禁止)」


バックアップ ディスクをあとで 作成するには

FDが用意できないなどの理由で、WindowsMeのセットアップ作業中にディスクを作成しない場合は、バックアップFD作成ユーティリティで[キャンセル]をクリックします。あとから作成するには、[スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。


セットアップ終了後の作業

WindowsMeセットアップ終了後に、次の作業が必要です。

WindowsMe起動ディスクの作成 WindowsMe起動ディスクは、WindowsMeがHDDから起動しなくなった場合などに使用します。WindowsMe起動ディスクの作成方法は、次のとおりです。あらかじめフォーマット済みのFDを1枚用意しておきます。


 p.45「FDのフォーマット」


- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「起動ディスク」タブ-[ディスクの作成]をクリックします。
- 4 「ディスクの挿入」画面が表示されたら、FDDにFDをセットして[OK]をクリックします。
- 5 「WindowsMe起動ディスク」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。

 p.46「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

ネットワークに接続する ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定 FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。

 p.60「インターネットに接続するには」

VirusScan for Windowsのインストール 本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。
 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

これでWindowsが使用できる状態になります。p.19「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

Windows98インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows98インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

Windows98のセットアップ

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows98セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

ようこそ

↓ 日本語入力システムIMEの説明が表示されます。

Windows98へようこそ

↓ ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。
名前を入力後 **[Tab]** を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

Windowsユーザー使用許諾契約書

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

セットアップの完了

↓ Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックし、セットアップを続けてください。

日付と時刻の設定


↓ 「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設定します。設定したら[閉じる]をクリックします。設定を変更する場合は、日本語入力システムをオフにした状態で行ってください。

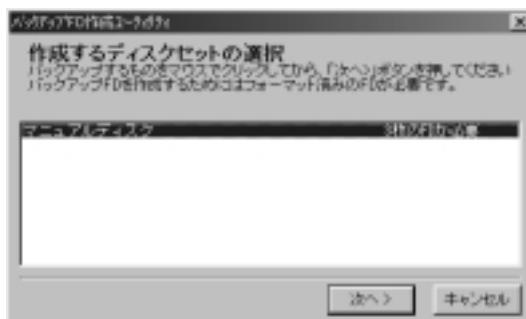
お知らせの確認

本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。すべて読み終わったら[OK]をクリックします。

バックアップディスクの作成

「作成するディスクセットの選択」画面に表示されたディスク名のバックアップディスクを作成します。

 p. 27「バックアップディスクの作成」



2 Windows 98のデスクトップが表示されます。



これでWindows98のセットアップは終了です。

続けてp.28「セットアップ終了後の作業」を行います。

バックアップ ディスクの作成

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。マニュアルディスクのほかに、「リカバリCD」には登録されていない最新のドライバなどのバックアップディスクを作成する場合があります。



制限

バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしたり、リカバリを実行したりしてしまうとバックアップディスクが作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアの再インストールができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」画面が表示されます。
- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。画面の説明に従ってバックアップディスクを作成します。
- 3 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。



p.46「ライトプロテクト(書き込み禁止)」


バックアップ ディスクをあとで 作成するには

FDが用意できないなどの理由で、Windows98のセットアップ作業中にディスクを作成しない場合は、バックアップFD作成ユーティリティで「キャンセル」をクリックします。あとから作成するには、[スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。


セットアップ終了後の作業

Windows98セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

Windows 98 起動ディスクの作成 Windows98起動ディスクは、Windows98がHDDから起動しなくなった場合などに使用します。Windows98起動ディスクの作成方法は、次のとおりです。あらかじめフォーマット済みのFDを2枚用意しておきます。


 p.45「FDのフォーマット」


- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「起動ディスク」タブをクリックし、FDDにFDをセットして[ディスクの作成]をクリックします。
- 4 画面の指示に従って、2枚の起動ディスクを作成します。
- 5 「Windows 98 起動ディスク 1、2」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。

 p.46「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

ネットワークに接続する ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定 FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。

 p.60「インターネットに接続するには」

VirusScan for Windowsのインストール 本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。
 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

これでWindowsが使用できる状態になります。p.19「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

Windows2000 インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows2000インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

Windows2000のセットアップ

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
名前を入力後 を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。設定を変更する場合は、日本語入力システムをオフにした状態で行ってください。

Windows2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[再起動]をクリックするとコンピュータが再起動します。

- 2 Windows2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。



これでWindows2000のセットアップは終了です。
続けてp.31「セットアップ終了後の作業」を行います。

セットアップ終了後の作業

Windows2000セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

バックアップ ディスクの作成

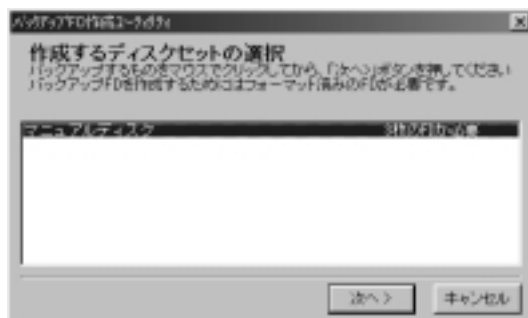
バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。マニュアルディスクのほかに、「リカバリCD」には登録されていない最新のドライバなどのバックアップディスクを作成する場合があります。



バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしたり、リカバリを実行したりしてしまうとバックアップディスクが作成できません。
バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアの再インストールができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「プログラム」 - 「バックアップFD作成ユーティリティ」をクリックします。
- 2 「作成するディスクセットの選択」画面が表示されます。




- 3 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。画面の説明に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。









p.46「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

セットアップブートディスクの作成 「セットアップブートディスク」は、回復コンソール*を実行する場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。


* 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。

セットアップブートディスクの作成方法は、次のとおりです。あらかじめフォーマット済みのFDを4枚用意してください。  p.45「FDのフォーマット」

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 2 「コマンドプロンプト」が「C:¥>」と表示されたら、次のように入力して  を押します。
CD ¥BOOTDISK (¥ は、スペースを意味します。)
「C:¥>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:¥>」とします。
① 「C:」と入力して  を押します。
② 「CD ¥」と入力して  を押します。
- 3 コマンドプロンプトが「C:¥BOOTDISK>」と表示されたら、次のように入力して  を押します。
MAKEBT32
- 4 「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら  を押します。
- 5 画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。ディスクの作成が始まります。
- 6 1枚目のディスクの作成が終わったら、画面の指示に従い2～4枚目のディスクセットを作成します。作成したディスクには、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトして大切に保管してください。
 p.46「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

ネットワークに
接続する ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行
う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示
に従ってください。

FAXモデムの設定 FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行え
るようFAXモデムの設定を行います。

 p.60「インターネットに接続するには」

VirusScan for
Windowsのインス
トール 本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。
「VirusScan for Windows」をインストールします。

 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができま
す。p.19「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用して
ください。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



制限

電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は電源を切っていてもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

Windows Meの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows Meを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「Windowsの終了」をクリックします。
- 2 「Windowsの終了」画面で「終了」を選択し、[OK]をクリックします。
- 3 Windows Meが終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows 98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] - 「Windowsの終了」をクリックします。
- 2 「Windowsの終了」画面で「電源を切れる状態にする」にチェックが付いている状態で[OK]をクリックします。
- 3 Windows 98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] - 「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
- 3 Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には、「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、メモリ上のデータはすべて消失します。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの リセット方法

Windowsのリセット方法は、次のとおりです。

WindowsMe : [スタート]-「Windowsの終了」-「再起動」を選択

Windows98 : [スタート]-「Windowsの終了」-「再起動する」を選択

Windows2000 : [スタート]-「シャットダウン」-「再起動」を選択

リセットできない ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押してリセットする



コンピュータがリセットできないときは...

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやFDDなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

キーボードを使う

本機に標準で添付されているキーボードは、日本語対応106キーボードです。
キーボードの接続方法は、p.8「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割


106個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられていますが、大きく5つのグループに分けられます。

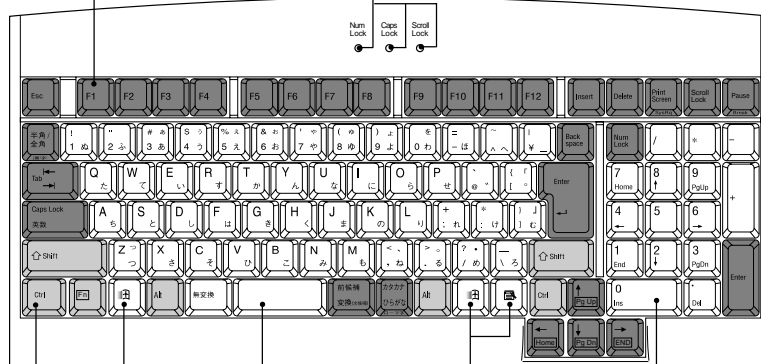
入力キー

機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。具体的な働きなどについては、使用するソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

キーロック表示ランプ

 p.40「キーロック表示ランプ」



Windowsキー

Windowsキー


制御キー

文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

数値キー

数字、演算子などを入力します。の状態でキーの機能が変わります。

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップに印字された文字が入力されます。

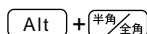
入力モードによって入力される文字が異なります。

直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。

日本語入力モード

- ローマ字入力 : キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
- かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え 直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは次のキー操作で行います。

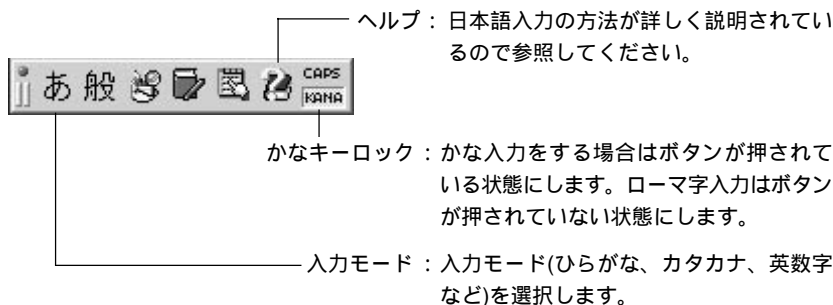


日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方 MS-IMEパネルには次のボタンがあります。ボタンを選択、クリックして、各設定を行います。



MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

記号の入力

インターネットのアドレスやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、直接入力モードで次のキーを押して入力します。

入力記号	入力方法
{ コロン }	
{ セミコロン }	
{ ハイフン }	
{ スラッシュ }	
@(アットマーク)	
(チルダ)	+
_ (アンダーバー)	+





キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプはキーボードの入力状態を表示しています。



Num Lock	役割 : 数値キーの状態を切り替え 切り替え : を押します。 点灯 : 数値を入力 消灯 : カーソルの位置を制御 数値キーの などが使えます。
Caps Lock	役割 : アルファベットの大文字/小文字の切り替え 切り替え : + を押します。 点灯 : 大文字を入力 消灯 : 小文字を入力
Scroll Lock	役割 : ソフトウェアによって異なります。 切り替え : を押します。

FnキーとWindowsキー









Fnキーと組み合わせて使うキー 次のキーは、**Fn** キーと組み合わせて使用することができます。

Fn + 	PgUp (Page Up)の役割をします。
Fn + 	Home の役割をします。
Fn + 	PgDn (Page Down)の役割をします。
Fn + 	End の役割をします。

Windowsキーと組み合わせて使うキー 2つのWindowsキーは、次の働きをします。

Windowsキー	機 能
	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。

Windowsキーとほかのキーを組み合わせて使うことにより、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機 能
 + F1	Windowsのヘルプが表示されます。
 + E	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
 + F	「検索:条件 = すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
 + Ctrl + F	「検索:コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
 + M	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
Shift +  + M	最小化されているウィンドウをすべてもとのサイズに戻します。
 + R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
 + Tab	タスクバーに表示されているボタン(アプリケーションやファイル)の選択を切り替えます。

マウスを使う

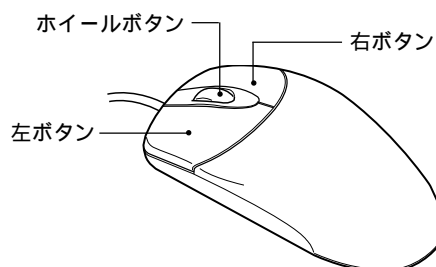
本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

ホイール機能を使用するには、専用の「マウスドライバ」のインストールが必要です。本機には、あらかじめ「マウスドライバ」がインストールされています。

マウスの操作



アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ: マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態のマウスを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「マウス」で行います。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする機器です。FDには、記憶できる容量の違いによって2HD、2DDの種類があります。内蔵FDDでは、次のどちらのFDも使用できます。

3.5型2HD : 1.44MBまたは1.25MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し



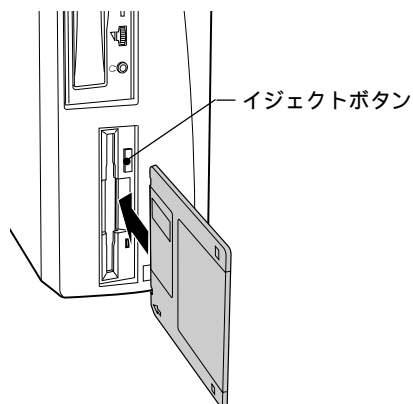
制限

アクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

コンピュータの電源を切る場合やコンピュータをリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

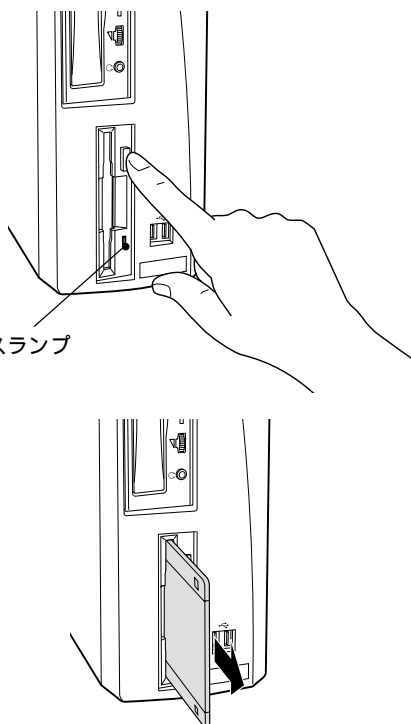
- 1 ラベル面を本体の左側に向け、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。



取り出し方法

- 1 FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。
- 2 FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。

FDDアクセスランプ



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類に合ったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
本機では、1.25MBフォーマットは行えません。

フォーマット方法 Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。



Windows2000では、Windowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを連続して2枚以上フォーマットする場合は、下記手順2～5を繰り返してください。

- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して「開始」をクリックします。「警告」が表示された場合は、「OK」をクリックします。
- 4 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します。(Windows2000インストールモデルを除く)
- 5 「閉じる」をクリックします。

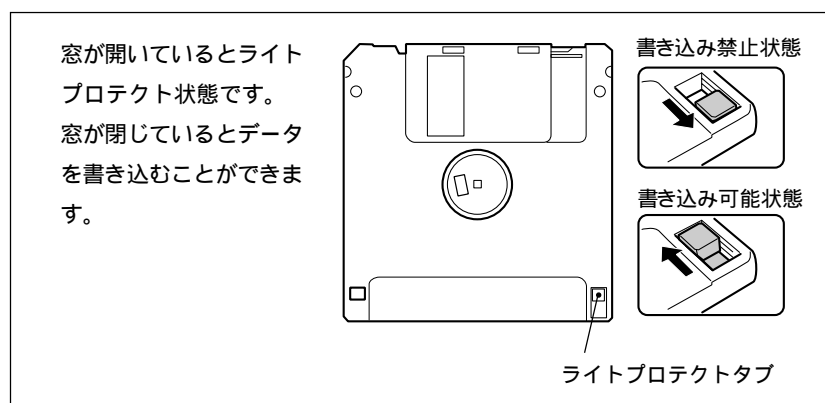
データのバックアップ

大切なデータは、別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDは、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくで安心です。

ライトプロテクトするには、FD裏面のライトプロテクトタブを操作します。



1.25MBのFDを使用する

本機には、あらかじめ専用の「3モードFDDドライバ」がインストールされており、1.25MBフォーマットのFDを使用することができます。1.25MBフォーマットは、EPSON PC(98互換機)シリーズや日本電気(株)製 PC-9801シリーズのコンピュータで標準的に使用されていたフォーマットです。

3 モード F D D ドライバ

1.25MBフォーマットのFDは、1.44MBフォーマットのFD同様に、Aドライブで使用することができます。

1.25MBのFDの読み書きのみをサポートします。1.25MBのフォーマットやディスクコピーなどは行えません。

512バイト/セクタでフォーマットされた1.21MBフォーマットのFDの読み書きは行えません。これは、日本語MS-DOSのFORMATコマンドで/Eオプション(EQUITYフォーマット)でフォーマットされたディスクです。

1.25MBフォーマットのFDで提供されているアプリケーションソフトをインストールすることはできません。

1.25MBフォーマットのFDからシステムを起動させることはできません。

HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



制限

誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

- ・ HDDを分解しないでください。
- ・ HDDアクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。

HDDのバックアップ

HDD内の重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

バックアップには、次のような方法があります。

重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。専用のバックアップソフトウェアを使用して、複数のファイルを一度にバックアップする。

購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

ドライブ	ファイルシステム
すべての領域(Cドライブ)	FAT32

CD-ROMドライブを使う

CD-ROMドライブは、データCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

CD-ROMのセットと取り出し

機種によりCD-ROMドライブの形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。



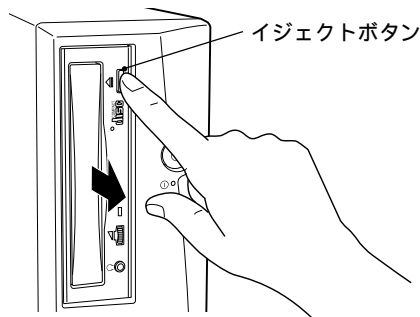
制限

CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

セット方法

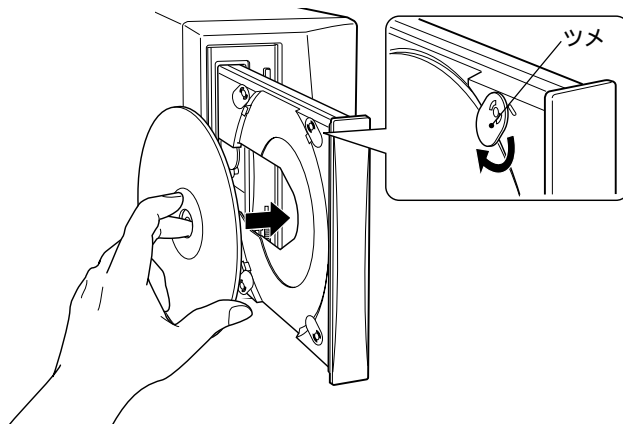
1

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2

CD-ROMの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにセットします。CD-ROMが落ちないように、ツメ(4個)で固定します。

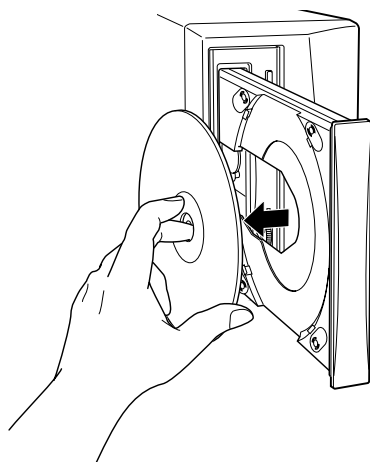


3

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1 CD-ROMアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 2 ツメをもとに戻し、CD-ROMをディスクトレイから取り出します。
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



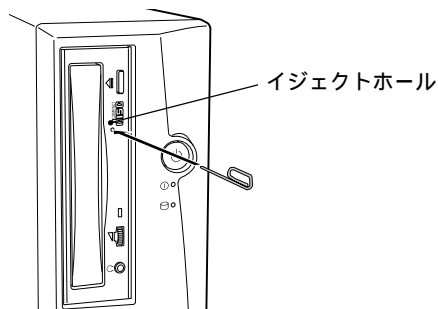
強制的なCD-ROMの取り出し

以下のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。

CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合

CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

- 1 電源が入っている場合は、コンピュータの電源を切ります。
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

解像度や表示色を変更する

本機のメインボード上には、ディスプレイ機能が搭載されています。解像度の設定などの基本的な操作について説明します。



参考

Safeモード・VGAモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、Safeモード(WindowsMe/Windows98)またはVGAモード(Windows2000)で起動して再設定を行ってください。



p.119「ディスプレイの不具合」



制限

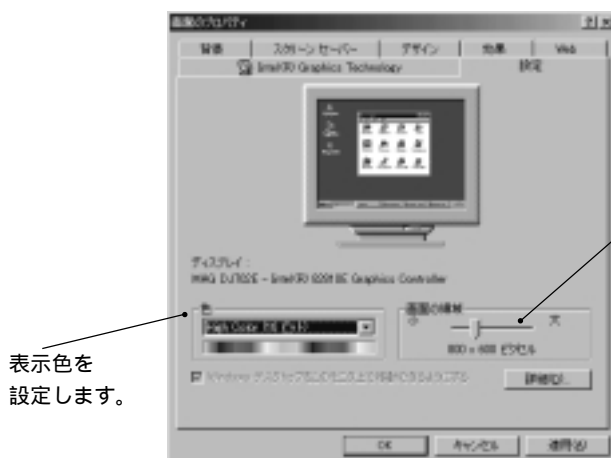
本機では、「解像度と表示色」に記載されている以外の設定を選択することができませんが、それらの設定に関しては保証していません。

Windows Meの場合

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

解像度や表示色
を変更するには

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「画面」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「画面の領域」や「色」で設定を変更します。



- 5 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (24ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1152 × 864 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

ディスプレイの
設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「画面」 - 「設定」タブ - [詳細] - 「モニタ」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

Windows 98の場合

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

解像度や表示色
を変更するには

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「画面」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「画面の領域」や「色」で設定を変更します。



- 5 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (24ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1152 × 864 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

ディスプレイの 設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「画面」 - 「設定」タブ - [詳細] - 「モニタ」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

Windows 2000の場合

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

解像度や表示色
を変更するには

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「画面」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「画面の領域」や「画面の色」で設定を変更します。

表示色を
設定します。



解像度を
設定します。

- 5 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (24ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1152 × 864 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

ディスプレイの
設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「モニター」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

FAXモデムを使う(FAXモデム機能搭載モデル)

FAXモデム機能内蔵モデルには、56Kbps(V.90対応)の通信速度に対応したFAXモデムカードが搭載され、高速の通信が可能です。

お使いになる前に

使用回線について 本機は、ダイヤル回線でもプッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。
ダイヤル回線またはプッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトやWindows上で設定することができます。

ダイヤル回線 : 回転式ダイヤル電話機のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

プッシュ回線 : 押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ・・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

**特殊な電話機・
回線での使用**

PBXへの接続

本機をPBX(構内交換機)に接続した場合は、NTT回線とPBXの回線(内線)の電気的特性などが異なると本機が正常に動作しない場合があります。
PBXの管理者または保守業者などに電気的特性などがNTT仕様と一致するかどうかを確認してから接続を行ってください。

2線式でない電話装置(ホームテレホンなど)での使用

ホームテレホンやビジネスホンなどの2線式でない電話装置は、内線の仕様がNTTの加入電話回線と異なります。このため内線側に(子機として)本機をそのまま接続することはできません。

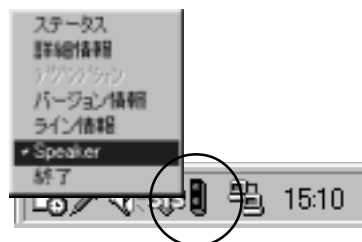
このような場合は、NTT回線と電話装置の主装置(親機)の間に切換機を設けたり、内線側に特別な処置をすることによって、本機の使用が可能になります。詳しくは、電話装置の販売業者や保守業者にお問い合わせください。

キャッチホンサービスについて

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合は、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用を避けてください。

なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。

- 通信速度の制限** 本機のモデム機能は、V.90*の通信方式により最大受信速度(プロバイダなどの相手側から本機側への方向)は56000bps、最大送信速度(本機からプロバイダなどの相手側への方向)は、33600bpsになります。
- ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。
- *V.90:ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格
- 通信を行う** モデム機能を使って、データ通信やファックス機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ATコマンドについて** 本モデムでは、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、添付の「リカバリCD(Windows2000では、「リカバリCD Disc2」)の「MODEM」-「Manual.htm(英文)」をご覧ください。
- 国モードの設定について** 本機の国モード(Country)は「コントロールパネル」にある「Modem Country Selection」で日本国(Japan)に設定されています。この設定は変更せずに使用してください。
- ダイヤル音の設定** 本モデムでは、ダイヤル音やネゴシエーション音を鳴らすか、鳴らさないかを設定することができます。ダイヤル中にタスクバーに表示される下図のアイコンを右クリックし、次のように設定します。
- 発信音を鳴らす : 「Speaker」にチェックを付けます。
- 発信音を鳴らさない : 「Speaker」のチェックを外します。
- 購入時の設定は、「発信音を鳴らさない」です。




インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。ここではFAXモデムを使用してインターネットに接続する方法を説明しています。作業の流れは次のとおりです。

電話回線の接続


本機のPHONEモジュラジャックに電話回線を接続します。

 p.14「電話回線への接続」



ダイヤルするための準備

ダイヤル情報(「国」や「市外局番」など)を設定します。

 p.63「ダイヤルするための準備」




プロバイダとの契約とアカウントの登録

個人でインターネットを利用するにはインターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。

契約方法には大きく分けて次の2つがあります。


① オンラインで契約する。

電話回線を使用してプロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、画面の指示に従って情報を入力していくと、電話番号の登録やネームサーバーアドレスなどの設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐ使えますが、支払いについては、クレジットカード決済になります。

 p.63「オンラインでプロバイダと契約する」

② ハガキや電話で申し込み、契約する。

プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとに、インターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。

 p.65「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」





接続

インターネットに接続します。ブラウジング(インターネット閲覧)や、メール交換が可能になります。

本書はブラウジングソフトとして「Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)」、メールソフトとして「Outlook Express(アウトルックエクスプレス)」を使用することを前提に記載しています。



p.69「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」



モデムを使わずにインターネットに接続する

FAXモデムを使わずに、次の方法でインターネットに接続することができます。

ISDN回線を利用する

FAXモデムの代わりにTA(ターミナルアダプタ)を使用します。接続方法はTAに添付の取扱説明書をご覧ください。

ネットワークを利用する

インターネットに接続されたLANなどに接続します。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ケーブルテレビの回線を利用する

詳しくはCATV会社にお問い合わせください。

プロバイダの選択 プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びましょう。不明点はプロバイダにご確認ください。

インターネットに インターネットを利用する場合に発生する費用は以下のとおりです。

かかる費用

初期費用: プロバイダへ契約時に支払います。

入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。

基本料金: 月または年ごとにプロバイダへ支払います。

通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。

追加料金: 基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。

基本料金で利用できる時間を超えると、分あたりいくらかという追加料金が加算されます。

通話料金: プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。契約している電話会社へ支払います。

アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合があります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。

**インターネットを
使う上での注意**

インターネットやメールを利用すると、簡単に情報が得られたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないこともあります。次の点に気をつけてインターネットやメールを使用してください。

メールは途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。

メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。

インターネット上の情報は、正しくない可能性があります。正しい情報であることを充分に見極めて、有効に活用する必要があります。

ウィルスに感染したメールを受信したり、気づかずに送信してしまうことがあります。

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報の
設定

モデムの設定をしていない場合は、お客様の住んでいる場所や市外局番などの設定を行います。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックし、「モデム」アイコン(Windows2000は、「電話とモデムのオプション」アイコン)をダブルクリックします。
- 2 [ダイヤルのプロパティ] Windows2000は、[編集]をクリックします。
- 3 「登録名」、「国名/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

オンラインでプロバイダと契約する

モデムに電話回線を接続して「インターネット接続ウィザード」から、マイクロソフト社が用意したインターネット参照サーバに接続します。参照サーバの一覧から契約したいプロバイダを選択して契約できます。電話番号や、IDなどの各種登録や設定が自動で行われ、契約完了後にインターネットがすぐ使えます。

プロバイダと
契約する

オンラインでプロバイダと契約する手順は、次のとおりです。契約時にクレジットカードのナンバーや有効期限などの情報が必要です。事前に用意しておきます。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「通信」(Windows98では、「インターネットツール」)-「インターネット接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」画面が表示されたら、「新しいインターネットアカウント...」を選択して、[次へ]をクリックします。

- 3 インターネット参照サーバの電話番号が表示されます。地元の電話番号または「Nationwide(120)345349」を選択し、[次へ]をクリックします。
ダイヤルが開始され、必要な情報がダウンロードされます。
- 4 ダウンロードされた情報が開きます。契約したいプロバイダを選んで、[次へ]をクリックします。
- 5 情報を入力して、契約します。以降は、各プロバイダの画面の指示に従ってください。
プロバイダから提示されるユーザーIDやパスワードなどの情報は、忘れずに書きとめておきます。



参考

「オンラインサービス」でプロバイダ契約

本機では、「オンラインサービス」というフォルダがデスクトップに表示されています。「オンラインサービス」フォルダ内のプログラムは、国内の代表的なプロバイダと契約できるサービスです。

「オンラインサービス」フォルダを開くと、プロバイダ名のアイコンがいくつか表示されます。このアイコンをダブルクリックすると、契約のための画面が表示されます。画面の指示に従って操作してください。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います(ダイヤルアップ接続の設定)。

次の手順は設定方法の一例です。プロバイダより、設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。



接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
ユーザー名	コネクションID、PPP ログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID、ID 番号、接続アカウント、ダイヤルアップログイン名
パスワード	PPP パスワード、パスワード、接続パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント
メールパスワード	Mail パスワード、パスワード、初期パスワード
メールサーバ	メールサーバ、POP メールサーバ

ダイヤルアップ 接続の設定をする

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「通信(Windows 98では、「インターネットツール」)-「インターネット接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」画面が表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、…」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 3 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。
- 4 「ステップ1:インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、接続先の電話番号を入力します。

- 5 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は「詳細設定」をクリックします。
IPアドレスの指定がない場合は手順10へ進みます。
- 6 「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。
- 7 「ISPによるDNS(ドメイン ネーム サービス)アドレスの自動項目割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。
- 8 「プライマリDNSサーバー」「別のDNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、「OK」をクリックします。
- 9 「ステップ1:...」画面に戻ったら「次へ」をクリックします。
- 10 「ステップ2:インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」「パスワード」を入力し、「次へ」をクリックします。
- 11 「ステップ3:コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、「次へ」をクリックします。
- 12 「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 13 プロバイダからの資料をもとに次の設定を行います。
① 「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、「次へ」をクリックします。
② 「電子メールアドレス」を入力して「次へ」をクリックします。
③ 「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して「次へ」をクリックします。
④ 「アカウント名」と「パスワード」を入力して「次へ」をクリックします。
- 14 「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら「完了」をクリックします。
「今すぐインターネットに...」にチェックが付いているとInternet Explorerが起動します。
次の「インターネットへの接続と切断」に進みます。

インターネットへの接続と切断

接続を開始する インターネットへの接続は、次の方法で行います。

- 1 「Internet Explorer」アイコン、または「Outlook Express」アイコンをダブルクリックして起動します。



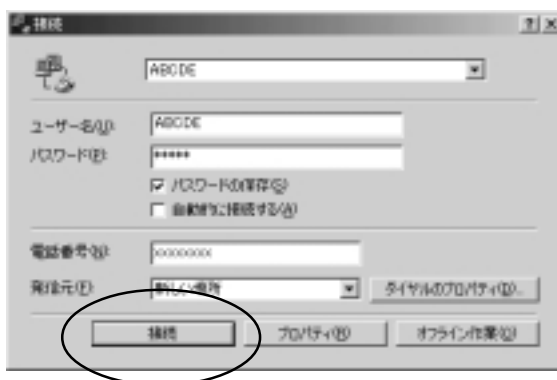
Internet Explorer



Outlook Express

- 2 「ダイヤルアップの接続」画面(Windows Meは、「接続」画面)が表示されます。「接続先」、「ユーザー名」、「パスワード」などを入力します。自動的に入力されている項目もあります。

- 3 入力内容を確認して[接続]をクリックします。



- 4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。



< WindowsMe/Windows2000 >



< Windows98 >

別の方法でインターネットに接続する

接続を開始するには、次のような方法もあります。

接続完了後に「Internet Explorer」または「Outlook Express」を起動します。

- ・ WindowsMeの場合 : 「マイコンピュータ」-「コントロールパネル」
-「ダイヤルアップネットワーク」の接続したいアイコンをダブルクリックし、[接続] をクリックします。
- ・ Windows98の場合 : 「マイコンピュータ」-「ダイヤルアップネットワーク」の接続したいアイコンをダブルクリックし、[接続] をクリックします。
- ・ Windows2000の場合 : 「マイコンピュータ」-「コントロールパネル」
-「ネットワークとダイヤルアップ接続」の接続したいアイコンをダブルクリックし、[ダイヤル] をクリックします。

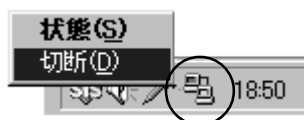
電子メール作成時のインターネット接続

電子メールの送受信は、インターネットに接続されていないと行えませんが、電子メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

接続を終了する
(切断)

インターネットの切断は、次の方法で行います。

タスクバーに表示されている「接続」アイコンを右クリックし、「切断」をクリックします。



Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するため、次のソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)

インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。

Outlook Express(アウトルックエクスプレス)

メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

上記以外のソフトウェアを使用する場合は、各ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

Internet Explorerの使い方

起動

- 1 デスクトップ上の「Internet Explorer」アイコンをダブルクリックします。

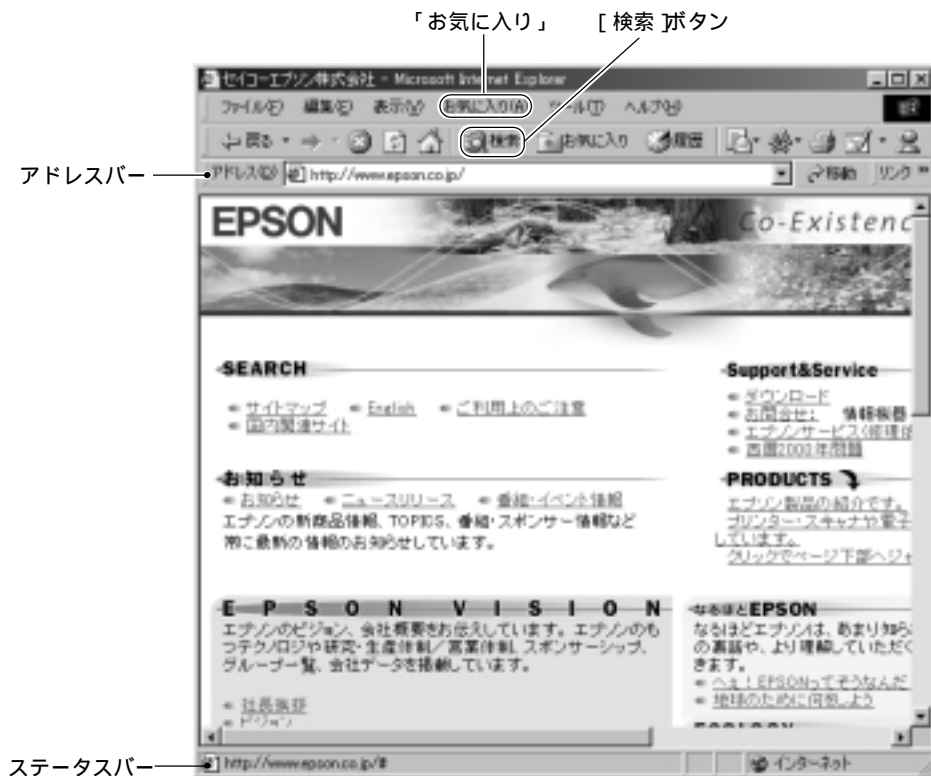


- 2 「ダイヤルアップの接続」画面(Windows Meは、「接続」画面)で[接続]をクリックします。接続が完了するとホームページが表示されます。

終了


- 1 画面右上の×をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。
- 2 「自動切断」画面が表示されます。[今すぐ切断する]をクリックします。これでインターネットが切断されます。

使い方



画面の内容は予告なく変更する場合があります。

見たいホームページを開くには




- ・アドレスバーにアドレスを入力して  を押します。
- ・キーワードを使って検索します。

[検索]ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

「お気に入り」にページを登録する

頻繁にアクセスするページは、「お気に入り」に登録しておくと、「お気に入り」をクリックするだけで一覧が表示され、すぐにアクセスすることができます。
登録方法：「お気に入り」-「お気に入りに追加」をクリックします。

リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でポインタが  から  に変わる場所があります。
 に変わる場所をクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。

Outlook Expressの使い方

起動

- 1 [スタート] - 「プログラム」 - 「Outlook Express」をクリックします。
- 2 インターネットに接続する場合は、「ダイヤルアップの接続」画面 (Windows Meは、「接続」画面) で[接続]をクリックします。接続が完了すると自動的にメールの送受信ができます。

終了

- 1 画面右上の×をクリックして、「Outlook Express」を終了します。
- 2 インターネットに接続している場合は、「自動切断」画面で、[今すぐ切断する]をクリックします。

使い方



メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」 - 「オフライン作業」をクリックします。

ボタン

フォルダ
メールが保存されます。

アドレス帳に登録されたアドレスの一覧です。



接続の状態を表示します。

オンライン：インターネットに接続しています。

オフライン：インターネットに接続していません。

メールを送信
する(オンライン
の場合)

- 1 [新しいメール]ボタンをクリックしてメール作成画面を表示します。
- 2 必要事項 「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。
- 3 [送受信]ボタンをクリックします。

メールを送信
する(オフライン
の場合)

- 1 オンラインの場合の手順1.2を参照して、メールを作成します。
- 2 [送信]ボタンをクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。
複数のメールを作成し、1度に送信することができます。
- 3 [送受信]ボタンをクリックして、「接続」画面で、[接続]をクリックします。
接続が完了すると、「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

メールを
受信する

- 1 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると、自動的に受信します。
インターネットに接続されていない場合は、[送受信]ボタンをクリックすると接続作業が行われます。
- 2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る

アドレス帳にメールアドレスを登録しておく、と、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

- 1 [アドレス]ボタンをクリックします。
- 2 [新規作成]ボタンをクリックして、[新しい連絡先]をクリックします。
- 3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

省電力機能

省電力機能を利用すれば、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。



省電力機能の設定は、「BIOS Setupユーティリティ」での設定よりもWindowsでの設定が優先されます。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常モードへは、数十秒で復帰できます。

休止状態(WindowsMe/Windows2000)

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

休止状態を有効にする

Windows2000インストールモデルの場合、休止状態を有効にするには、次の設定が必要です。

「コントロールパネル」-「電源オプション」-「休止状態」タブをクリックして、「休止状態をサポートする」にチェックを付けます。



WindowsMeインストールモデルの場合は、あらかじめ「休止状態をサポートする」にチェックが付いています。購入時は「1時間後」に設定されています。

電源ランプの表示

省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態 (WindowsMe/Windows2000)	消 灯
電源切断時	消 灯

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源が切れたり、省電力モードに移行したりします。

② 直ちに実行

席を外するときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

WindowsMe/Windows98: [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「電源の管理」

Windows2000 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、ディスプレイまたはHDDの電源が切れます。

設定した時間を超えて何も操作しないと、スタンバイまたは休止状態に移行します。

WindowsMeの場合

直ちに実行

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

WindowsMe/Windows98の場合

[スタート] - 「Windowsの終了」から選択、実行します。

電源スイッチを押して実行します。

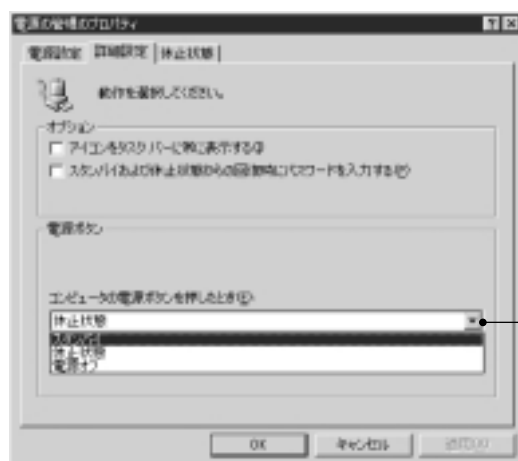
どのモードに入るかは、「詳細設定」タブで設定します。

Windows2000の場合

[スタート] - 「シャットダウン」から選択、実行します。

電源スイッチを押して実行します。

どのモードに入るかは、「詳細」タブで設定します。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

WindowsMeの場合

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	緑点灯	キーボードのスペースキーを押す。 (誤って電源スイッチを押さないでください。)
スタンバイ	緑点滅	電源スイッチを押す。 キーボードのスペースキーを押す。
休止状態 (WindowsMe/ Windows2000)	消灯	電源スイッチを押す。

その他の機能

サウンド機能

本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。また、スピーカも内蔵されているので、そのままでも音を鳴らすことができます。

スピーカを使用するには 本機背面にはライン出力コネクタが用意されています。ライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカを接続すれば、スピーカから音を鳴らすことができます。



制限

ライン出力コネクタに外部スピーカを接続しても、内蔵スピーカの音を切ることはできません。

ヘッドフォンを使用するには 本機背面にはヘッドフォン出力コネクタが用意されています。ヘッドフォン出力コネクタにヘッドフォンを接続すれば、ヘッドフォンから音を鳴らすことができます。ヘッドフォン出力コネクタにヘッドフォンを接続すると、内蔵スピーカからは音が鳴らなくなります。

音を鳴らしたり、録音したりするには Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。Windows使用時に音が鳴らない、音が大きすぎるといった場合には、「ボリュームコントロール」で音量を調節します。

サウンドユーティリティは、[スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」フォルダに登録されています。Windowsのサウンドユーティリティの使用法は、「Windowsのヘルプ」を参照してください。

ネットワーク機能

本機のメインボードには、ネットワーク機能が搭載されています。ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うのに必要となるプロトコルの設定などにも必要になります。ネットワークの構築は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。



NetWareサーバを利用している場合や NetBEUI を使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWare のみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

パラレルコネクタ

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。



p.104「Advancedメニュー画面」

シリアルコネクタ

本機背面のシリアルコネクタには、シリアルマウスやTA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。



p.104「Advancedメニュー画面」

USBコネクタ

本機には、USBコネクタが前面に2個、背面に2個用意されています。USBコネクタはすべて同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。接続する周辺機器によっては、デバイスドライバを必要とする場合があります。詳しくは、接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。

データファイルの更新

次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新が必要です。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』は添付のユーティリティCDに登録されています。

システムの拡張


コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

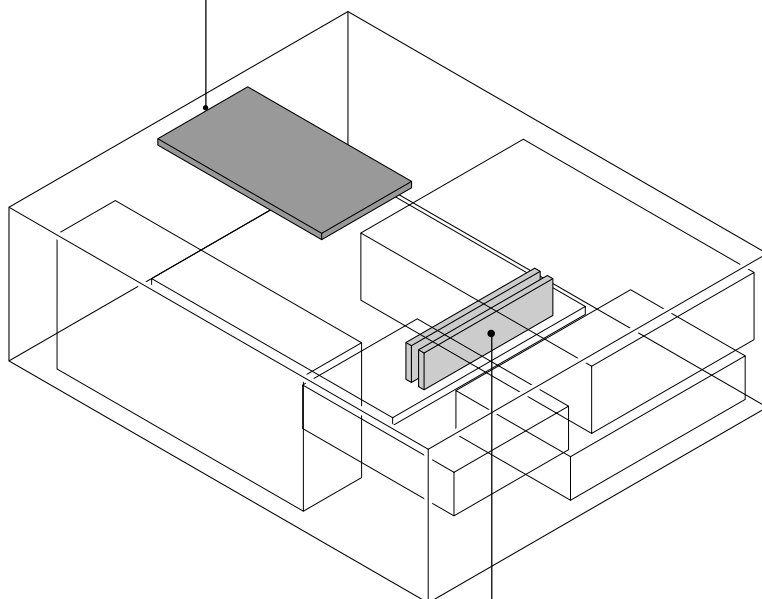
拡張できる装置

本機は、内蔵メモリや拡張カードを増設・交換して機能を拡張することができます。

拡張スロット


PCI仕様の拡張カードを1枚装着できます。購入時に拡張カードが装着済みの場合、増設することはできません。

 p.89「拡張カードの装着」



DIMMソケット

本機にはDIMMソケットが2本用意されており、内蔵メモリを512MBまで拡張することができます。

 p.86「DIMMの増設」

作業時の注意

コンピュータ内部に拡張カードを装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



拡張カードやDIMMの取り付け・取り外し、内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



本機は電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

拡張カードやDIMMの取り付け・取り外しを行うときは、裏表や前後を間違えないでください。間違えて装着すると故障の原因になります。本書や拡張カードに添付のマニュアルの指示に従って、正しく装着してください。

コンピュータおよび接続している周辺機器の電源を切ってください。

コンピュータ内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。

作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから作業を行ってください。

本体カバーの取り外し・取り付け



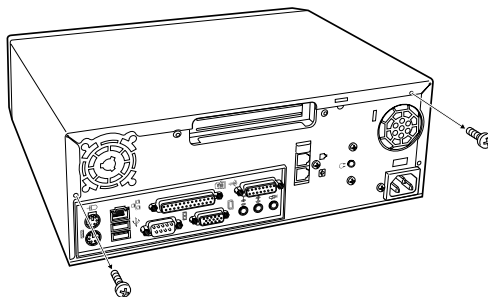
電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

本体カバーの取り外し・取り付け

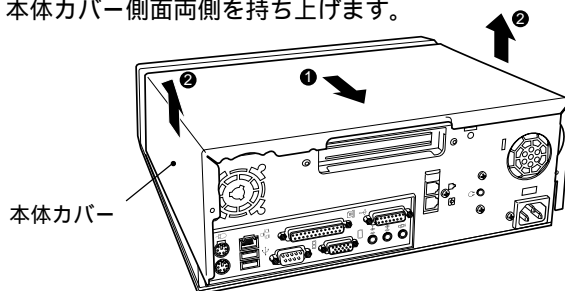
本機の内部に拡張カードを装着する場合は、本体カバーを外す必要があります。
本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。作業は、コンピュータを横置きにして行ってください。

取り外し

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 電源コード、キーボード、ケーブルなどすべてのケーブル類をコンピュータ本体から外します。
- 3 本体背面のネジ(2本)を外します。



- 4 本体カバーを取り外します。
① 本体カバーを背面側にずらしします。
② 本体カバー側面両側を持ち上げます。

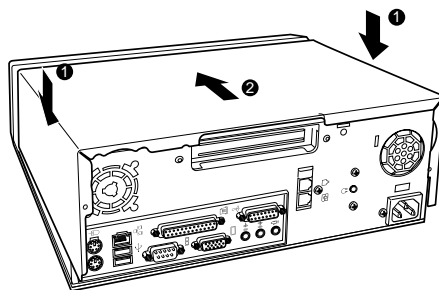


取り付け

1

本体カバーを取り付けます。

- ① 本体カバーを本体側面両側にはめ込みます。
- ② 本体背面からフロントパネル側に向けて、押し込みます。



2

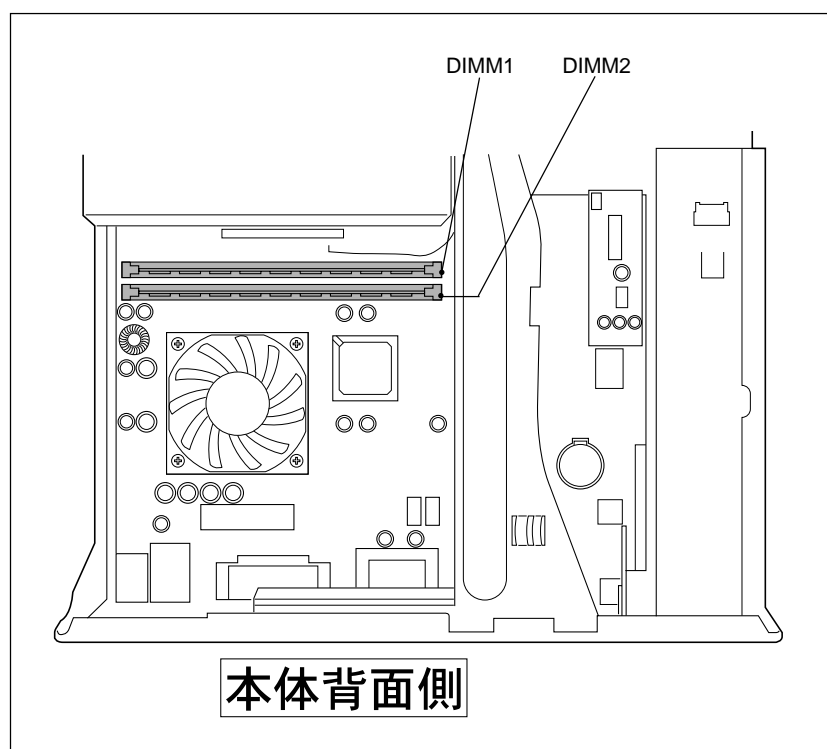
ネジ(2本)で本体カバーを固定します。

DIMMの増設

本機で、使用可能なDIMM(メモリ)の仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

DIMMの仕様

本機には、2つのDIMMソケットが用意されており、DIMMを増やすことにより最大512MBまで拡張できます。DIMMはDIMM1ソケットから取り付けます。購入時には、DIMM1ソケットにあらかじめDIMMが取り付けられています(容量は、購入時の仕様により異なります)。



本機で使用可能なDIMMの仕様は次のとおりです。

168ピンDIMM(Dual Inline Memory Module)

3.3V SDRAM (Unbufferd SynchronousDRAM)


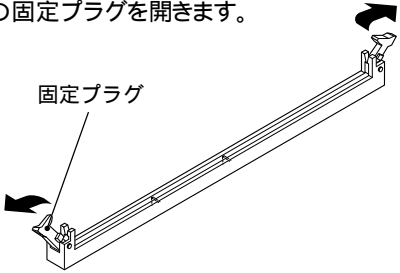
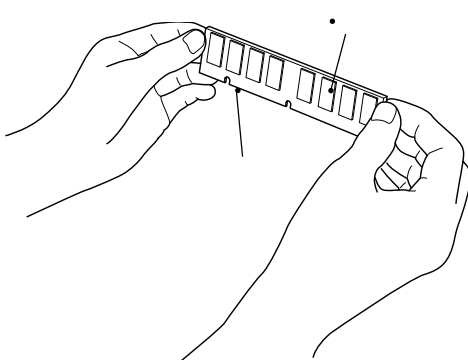
メモリ容量 64MB、128MB、256MB

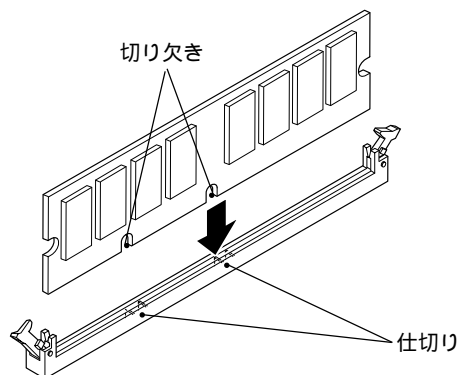
ECC機能非対応



上記仕様と一致するDIMMを当社のオプションリストより選択してください。

DIMMの取り付け

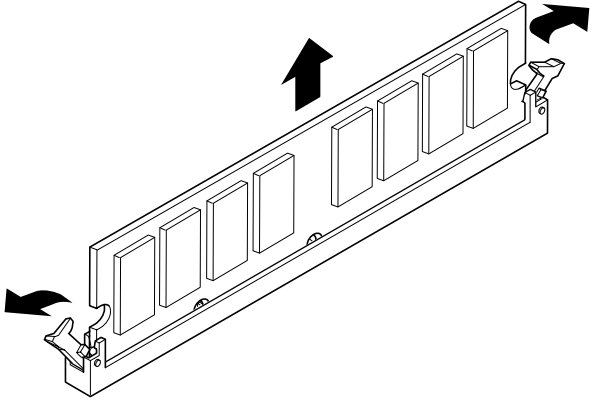
作業は、コンピュータを横置きに行ってください。

- 1 本体カバーを取り外します。
 p.84「本体カバーの取り外し」
- 2 作業の妨げとなるケーブル類を取り外します。
- 3 DIMMソケットの固定プラグを開きます。

- 4 DIMMを静電気防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。

- 5 DIMMソケットにDIMMを差し込みます。
 - ① DIMMの2つの切り欠きをDIMMソケット内の2つの仕切りに合わせます。
 - ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。



- 6 手順2でケーブル類を取り外した場合は、ケーブル類をもとどおりに取り付けます。
- 7 本体カバーを取り付けます。
 p.85「本体カバーの取り付け」
- 8 コンピュータを使用できるように、取り外した本体背面のケーブル類を接続します。
- 9 コンピュータを起動します。 **Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.95「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 10 「メインメニュー画面」の「Installed Memory」に表示されている総メモリ容量を確認します。
装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

DIMMの外し方

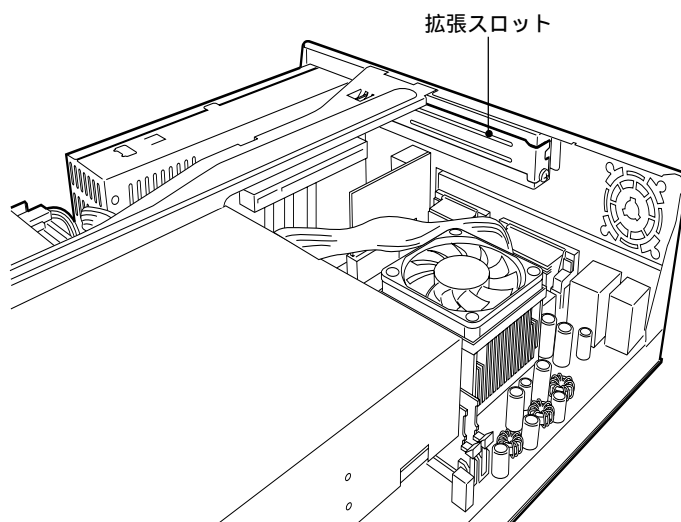
- 1 DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。

- 2 DIMMが外れたら静かに取り外し、静電気防止袋に入れて保管してください。

拡張カードの装着

拡張スロットの仕様と拡張カードを取り付ける方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機には、拡張スロットが1つあります。拡張スロットの仕様は、次のとおりです。



コネクタ仕様	拡張カードサイズ (mm)
PCI	ボード長130mmまで装着可能

拡張カードの取り外し・取り付け


拡張カードを装着する前に、必ず拡張カードに添付のマニュアルをご覧ください。
作業は、コンピュータを横置きに行ってください。

取り付け

拡張カードの取り付け方法は、次のとおりです。

1

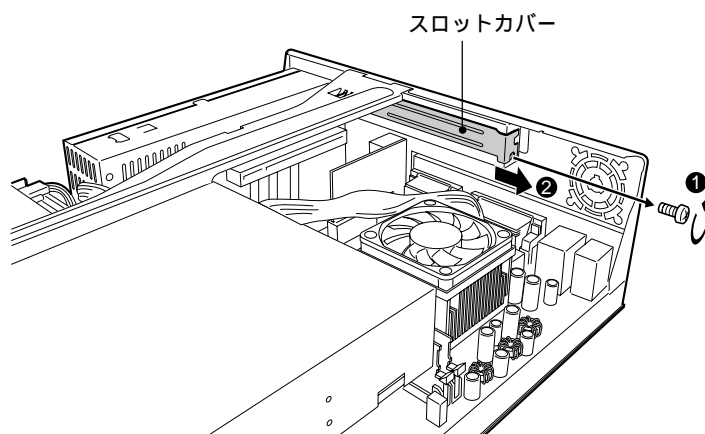
本体カバーを取り外します。

 p.84「本体カバーの取り外し」

2

スロットカバーを取り外します。

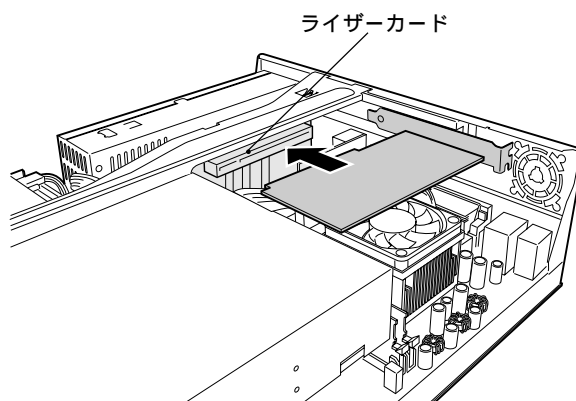
- ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
- ② スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。



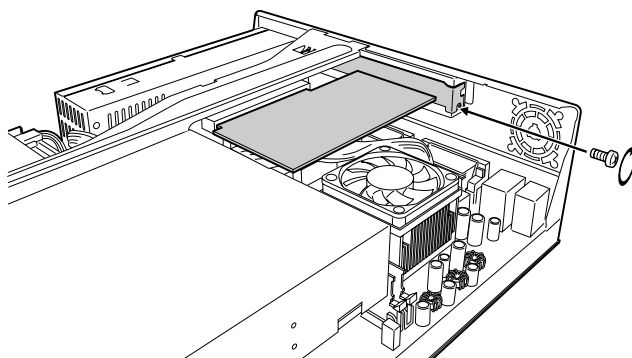
外したスロットカバーは、大切に保管してください。拡張カードを外したあと、別の拡張カードを装着しない場合は、本体内部にほこりなどが入らないように再び装着してください。

3 拡張カードを差し込みます。


拡張カードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、反対側からライザーカードを手で軽く押さえながら拡張カードをゆっくり押し込みます。



4 拡張カードをネジで固定します。





5 本体カバーを取り付けます。

 p.85「本体カバーの取り付け」

6 コンピュータを使用できるように、取り外した本体背面のケーブル類を接続します。

取り外し

拡張カードの取り外し方法は、次のとおりです。

- 1 本体カバーを取り外します。
 p.84「本体カバーの取り外し」
- 2 拡張カードを固定しているネジを外します。
- 3 ライザーカードを手で軽く押さえながら拡張カードを引き抜きます。
- 4 別の拡張カードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けます。
- 5 本体カバーを取り付けます。
 p.85「本体カバーの取り付け」
- 6 コンピュータを使用できるように、取り外した本体背面のケーブル類を接続します。

BIOSの設定

BIOS Setupユーティリティを使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSの設定を 始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。

BIOSの設定を変更するのは次のような場合です。

本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合

パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。



p.136「リチウム電池の交換」



制限

BIOS Setupユーティリティで設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値（初期設定値）と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。



p.110「BIOSの設定値」

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行してください。



p.98「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

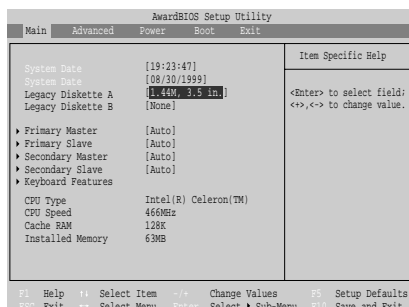
1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。

2 黒い画面の下の方に次のメッセージが表示されている間にキーボードの **[Delete]** を押します。

Press to enter SETUP
このメッセージが表示されている間に **[Delete]** を押さないとWindowsが起動します。



「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。



BIOS Setupユーティリティ画面(イメージ)

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **[Delete]** を押してBIOS Setupユーティリティを起動してください。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して終了します。 **[F1]** を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

BIOS Setupユーティリティの操作

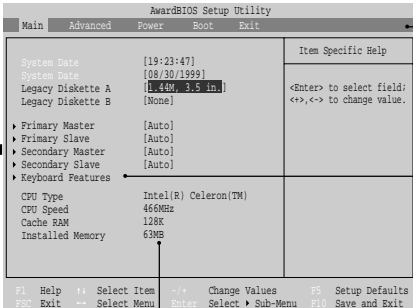
「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

操作は、次の順番で行います。

- ① 「処理メニュー」を選択
- ② 「設定項目」を選択
- ③ 「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。なお、各設定項目の説明は、p.100をご覧ください。

<メニュー画面>



① 処理メニューを選択
→ ← で変更します。
起動直後は、「Mainメニュー画面」が表示されています。

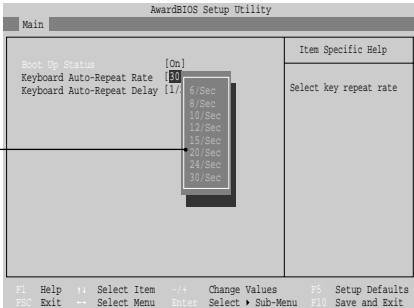
② 設定項目を選択
↑ ↓ で変更します。

③ 設定値を選択

黒字表示されていると、設定変更可能です。
+ / - を押すと値が変わります。
← を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

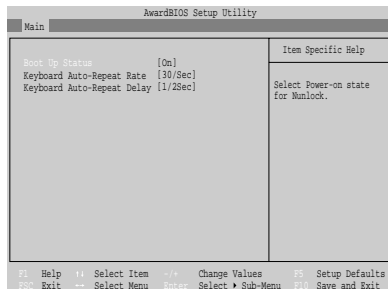
<選択ウィンドウ>

選択ウィンドウ内の設定値を
↑ ↓ で変更し、← で設定します。




















▶ マークの付いている設定項目を選択して ← を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>



「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。
Esc を押すと<メニュー画面>に戻ります。

キー操作一覧

キー	操作できる内容
 ,  + 	ヘルプを表示します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「EXIT」画面を表示します。 ・「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
 , 	設定を変更する項目を選択します。
 , 	処理メニューを選択します。
 , 	項目の値を変更します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
	全設定項目の値を、初期値に変更します。
	変更した設定値を保存して終了します。
 , 	画面の中の最初の項目に移動します。
 , 	画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を前回保存した値や初期値に戻すことができます。

Load Setup Defaults

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

- 1 **F5** を押す、または「Exitメニュー画面」-「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load default configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を初期値時に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。

Discard Changes

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exitメニュー画面」-「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load previous configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。


BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2種類の方法があります。

変更した内容を
保存し、終了する。
(Exit Saving
Changes)

- 1 「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。


Setup confirmation
Save configuration changes and exit now ?
[Yes] [No]

- 2 変更した設定値を保存して終了する場合は「Yes」を選択し、を押します。

変更した内容を
破棄し、終了する。
(Exit Discarding
Changes)

- 1 「Exitメニュー画面」-「Exit Discarding Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation
Discard configuration changes and exit now?
[Yes] [No]

- 2 変更した設定値を保存せずに終了する場合は「Yes」を選択し、を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

Main メニュー画面 : 日付、時間、FDD、HDDやパスワードなどの設定を行います。

Advancedメニュー画面 : CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

Powerメニュー画面 : パワーマネージメント(省電力)に関する設定を行います。

Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態の設定などを行います。

Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期設定値に戻します。

Mainメニュー画面

■ は初期設定値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)時間の設定	時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定	日付を設定します。
Legacy Diskette A (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。 None : FDD未接続 1.2M,5.25in : 5.25型1.2MB対応FDD 720K,3.5in : 3.5型720KB対応FDD 1.44M,3.5in : 3.5型1.44MB対応FDD

Primary Master Primary Slave Secondary Master Secondary Slave (IDE装置の設定) * 表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。	Type	IDE装置の仕様を設定します。通常は[Auto]を指定します。[Auto]で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には[User Type HDD]などを選択して各項目を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD : 以降のHDDに関する仕様を個別に設定することができます。 CD-ROM : CD-ROMドライブに関する項目を個別に設定することができます。 MO : MOドライブに関する項目を個別に設定することができます。 Other ATAPI Device : 上記ドライブ以外のATAPI機器に関する項目を個別に設定することができます。
	Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 Normal : 容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 LBA : 容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE : 容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual : 「Cylinders」、「Head」、「Sector」項目を個別に設定します。
	Cylinders	HDDのシリンダ数を設定します。
	Head	HDDのヘッド数を設定します。
	Sector	HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を設定します。
	*CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を表示します。
	*Maximum LBA Capacity	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	Multi-Sector Transfers	1度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。「Type」項目を[Auto]に設定すると自動的に設定されます。 Disabled : 複数のセクタを転送しません。 2,4,8,16,32 Sectors : 転送セクタを設定します。 Maximum : HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。
	SMART Monitoring	初期設定[Disabled]のまま使用します。
	PIO Mode	HDDの転送モード(PIO)を設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4 : 転送モードを設定します。
	ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4 : 転送モードを設定します。 Disabled : 使用しません。
	Set Device as	「Type」項目で「 MO 」に設定した時のみ表示されます。 Auto : BIOSが自動的にMOのモードを設定します。 Floppy : MOドライブをFDモードで使用します。 Hard Disk : MOドライブをHDDモードで使用します。

Keyboard Features	Boot Up NumLock Status (起動時の NumLock の設定)	起動時の NumLock の状態を設定します。 Off : NumLock が押されていない状態にします。 On : NumLock が押された状態にします。
	Keyboard Auto-Repeat Rate (キーリピート回数の設定)	1 秒間のキーリピート回数を選択します。 6 8 10 12 15 20 24 30 Sec
	Keyboard Auto-Repeat Delay (ストローク間隔の設定)	最初のキー入力から次のキー入力を受け付けるまでの時間を選択します。 1/4 1/2 3/4 1 Sec
Supervisor Password User Password		コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。初期設定値は[Disabled]です。☞「Password の設定」
Halt On (エラーチェックの設定)		システム起動時にチェックするエラーの種類を選択します。指定したエラーが発生するとシステムは起動を停止します。 All Errors : すべてのエラーチェックを行います。 No Error : エラーチェックを行いません。 All but Keyboard : キーボード関連以外のエラーチェックを行います。 All but Disk : FDD 関連以外のエラーチェックを行います。 All but Disk/Keyboard : キーボード/FDD 関連以外のエラーチェックを行います。
*Installed Memory		メモリ容量を自動的に表示します。

Password の設定

Supervisor /User Password

この機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時などにパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないとコンピュータを使用することができません。

パスワードには「Supervisor Password(管理者パスワード)」と「User Password(ユーザーパスワード)」の2種類があります。この機能は「Main メニュー画面」の「Supervisor Password」および「User Password」項目で設定します。それぞれの「Password」の詳細は以下のとおりです。

	パスワード項目	設定値	BIOS Setup ユーティリティ 起動時	起動時 Windows
1	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1 変更可能)	○
	User Password	Enabled	○ (一部項目*2 のみ変更可能)	○
2	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1 変更可能)	×
	User Password	Disabled		
3	Supervisor Password	Disabled	○ (全項目*1 変更可能)	○
	User Password	Enabled		

○: パスワード要求あり ×: パスワード要求なし

*1: BIOS Setup ユーティリティの変更可能な全項目を指します。


*2: 次の項目を指します。



「Main メニュー画面」- 「System Time」, 「System Date」, 「User Password」

「Exit メニュー画面」- 「Exit Saving Changes」, 「Exit Discarding Changes」

パスワードの設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 パスワードを入力し、 を押します。
「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの
大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入
力し、 を押します。
同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。


Confirm Password:
- 4 パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Enabled」に変
わります。




登録したパスワードは、書き移して保管するなどして忘れないようにしてください。パス
ワードを忘れると、Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。
万一、パスワードを忘れた場合は、CMOS RAMを初期化することでパスワードをクリ
アすることができます。ただし、CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情
報は、すべてクリアされます。

 p.139「CMOS RAMの初期化」

パスワードの削除

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を
押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 何も入力せずに  を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に
変わります。これでパスワードが削除されます。

Advancedメニュー画面

*CPU Internal Frequency (CPUのスピードの設定)		コンピュータに搭載されているCPUの周波数を表示します。
*CPU External (FSB) Freq. (MHz)		コンピュータに搭載されているシステムの周波数を表示します。
CPU Level 1 Cache (1次キャッシュメモリの設定)		CPUの1次キャッシュの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
CPU Level 2 Cache (2次キャッシュメモリの設定)		CPUの2次キャッシュの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
CPU Level 2 Cache ECC Check (2次キャッシュメモリのECCの設定)		CPUの2次キャッシュのECCの設定をします。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
PS/2 Mouse Function Control (PS/2マウスの設定)		PS/2マウスを使用するかどうかを設定します。この場合、IRQ12が常にPS/2マウス用に確保されます。 Enabled : PS/2マウスを使用します。 Auto : 自動的に設定します。
I/O Device Configuration	Onboard AC97 Modem Controller (モデムの設定)	メインボード上のモデム機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
	Onboard AC97 Audio Controller (オーディオ機器の設定)	メインボード上のオーディオ機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
	Floppy Disk Access Control (FDのアクセス設定)	FDのアクセス方法を設定します。この設定は、BIOSを使用しないFormatコマンドなどでは機能しません。 R/W : 読み込み/書き込み可能 Read Only : 読み込みのみ可能
	Onboard Serial Port 1 (シリアルポートの設定)	シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ10 Disabled : シリアルポートを使用しません。
	Onboard Parallel Port (パラレルポートの設定)	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378H/IRQ7, 278H/IRQ5, 3BCH/IRQ7
	Parallel Port Mode (パラレルポートの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺機器で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 EPP : EPP モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します。 ECP+EPP : EPP+ECP モードに設定します。

	ECP DMA Select (パラレルポートのDMA設定)	動作モードに ECP、ECP+EPP を選択した場合の DMA チャンネルを設定します。 1 : DMA チャンネル 1 を使用します。 3 : DMA チャンネル 3 を使用します。
	Onboard Game Port (ゲームポートの設定)	メインボードのゲームポートで使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 200H - 207H 208H - 20FH : 設定したアドレスを使用します。
	Onboard MIDI I/O (MIDIの設定)	メインボードの MIDI で使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 330H - 331H 300H - 301H : 設定したアドレスを使用します。
	Onboard MIDI IRQ (MIDI IRQ信号の設定)	メインボードの MIDI で使用する IRQ 信号を設定します。 3 4 5 7 9 10 11 12 14 15
PCI Configuration	Slot 1 IRQ (PCI スロットのIRQ設定)	PCIスロットで使用する割り込み(IRQ)を設定します。 Auto : 自動設定します。 NA : 使用しません。 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15 : IRQ3/4/5/7/9/10/11/12/14/15を使用します。
	USB Function (USB機能の設定)	USB機能の有効/無効を設定します。 Disabled : USB機能を無効にします。 Enabled : USB機能を有効にします。

Power メニュー画面

省電力機能の設定を行います。



制限

本機では、省電力に関する設定は、Windowsでの設定が優先されます。
省電力に関する設定は、WindowsMe/Windows98の「電源の管理」または
Windows2000の「電源オプション」で設定を行ってください。

p.73「省電力機能」

Power Management (省電力機能の設定)	<p>省電力モードに移行する時間を設定します。</p> <p>Max Saving : 省電力モードを有効にします。Min Savingと比べて省電力モードへの移行時間が短くなります。</p> <p>Min Saving : 省電力モードを有効にします。Max Savingと比べて省電力モードへの移行時間が長くなります。</p> <p>Disabled : 省電力モードを無効にします。</p> <p>User Define : 省電力モードへの移行時間を設定します。</p>
Video Off Option (ビデオ信号の設定)	<p>ビデオ信号を停止するタイミングを選択します。</p> <p>Suspend->Off : 省電力モード時に停止します。</p> <p>Always On : ビデオ信号を停止しません。</p>
Video Off Method (ビデオ信号の設定)	<p>ビデオ信号を停止する方法を選択します。</p> <p>V/H SYNC+Blank : 垂直/水平同期信号を停止し、ビデオ信号をブランク信号にします。</p> <p>DPMS Standby / DPMS Suspend / DPMS OFF DPMSに従ってビデオ信号を停止します。</p> <p>Blank Screen : ビデオ信号をブランク信号にします。DPMSなどの省電力機能に対応していないディスプレイを使用する場合に選択します。</p>
HDD Power Down (HDDモータの停止時間の設定)	<p>HDDのモータを停止する時間を設定します。内蔵IDE HDDのみ有効です。</p> <p>Disabled : HDDを停止しません。</p> <p>1 ~ 15 Min : 1分から15分を選択します。</p>
Suspend Mode (サスペンドモードの設定)	<p>サスペンドモードに移行する時間を設定します。</p> <p>Disabled : 省電力モードに移行しません。</p> <p>1Min ~ 1Hour : 1分から1時間を選択します。</p>
PWR Button < 4 Secs (電源スイッチの設定)	<p>スイッチを押したときの動作を設定します。</p> <p>Soft Off : 電源スイッチを押した時間が4秒以下の場合、電源を切断します。</p> <p>Suspend : 電源スイッチを押した時間が4秒以下の場合、サスペンドモードになります。</p>

Power Up Control	AC PWR Loss Restart (再起動時の電源の設定)	<p>電源スイッチを押さずに、AC電源供給時に起動するかどうかを設定します。</p> <p>Enabled : 電源オフ時に、AC電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。</p> <p>Disabled : AC電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。</p> <p>Previous State : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後にAC電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。コンピュータを正常終了させた状態では、AC電源が供給されてもコンピュータは起動しません。</p>
	PWR Up On External Modem Act (モデム自動受信の設定)	<p>電源切断時、シリアルポートに接続したモデムに着信した時に起動するかどうかを設定します。</p> <p>Enabled : 設定します。</p> <p>Disabled : 設定しません。</p>
	Wake On LAN or PCI Modem: (LANまたはモデムからの起動設定)	<p>電源切断時、ネットワークまたはPCIモデムからの信号により、起動するかどうかを設定します。</p> <p>Enabled : 設定します。</p> <p>Disabled : 設定しません。</p>
	Automatic Power Up (自動電源投入の起動設定)	<p>設定した日付と時間に応じて、自動的に起動します。</p> <p>Disabled : 設定しません。</p> <p>Everyday : 設定した時間に、毎日起動します。</p> <p>By Date : 設定した日付と時間に、起動します。</p>

Bootメニュー画面

「Bootメニュー画面」では、システムの起動方法と、起動時の設定を行います。

[1.Removable Device][2.IDE Hard Drive][3.ATAPI CD-ROM]では、システムを起動する順番を設定します。

ドライブを選択して **+** を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して **-** を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

[Boot Virus Detection]、[Quick Power On Self Test]、[Boot Up Floppy Seek]では、システム起動時に行う動作などを設定します。

1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を 1 番上にします。 Disabled /Legacy Floppy
2. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を 1 番上にします。
3. ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を 1 番上にします。
Plug & Play O/S (Plug & Play対応OSの設定)	初期設定[No]のまま使用します。
Boot Virus Detection (ウィルスチェックの設定)	ブートセクタに感染するウィルスをチェックします。 Disabled : チェックしません。 Enabled : チェックします。
Quick Power On Self Test (POSTの設定)	システム起動時のPower On Self Test(POST)の実行回数を選択します。 Disabled : 複数回実行します。 Enabled : 1回だけ実行します。起動時間を短くすることができます。
Boot Up Floppy Seek (シークの設定)	起動時にFDDのシーク動作を行うかを選択します。 Disabled : シーク動作を行いません。 Enabled : シーク動作を行います。

Exitメニュー画面

「Exitメニュー画面」は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を保存します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Legacy Diskette A	None 1.44M 3.5 in		None 1.44M 3.5 in	
Primary	Master	Slave	Master	Slave
Type				
Translation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
ULTRA DMA Mode				
Set Device as				
Secondary	Master	Slave	Master	Slave
Type				
Translation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
ULTRA DMA Mode				
Set Device as				
Keyboard Features				
Boot Up NumLock Status	Off	On	Off	On
Keyboard Auto-Repeat Rate	()sec.	()sec.
Keyboard Auto-Repeat Delay	()sec.	()sec.
Halt On	All Errors All but Disk	No Error All but Disk/Keyboard	All Errors All but Disk	No Error All but Disk/Keyboard

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
CPU Level 1 Cache	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
CPU Level 2 Cache	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
CPU Level 2 Cache ECC Check	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
PS/2 Mouse Function Control	Enabled	Auto	Enabled	Auto
I/O Device Configuration				
Onboard AC97 Modem Controller	Disabled	Auto	Disabled	Auto
Onboard AC97 Audio Controller	Disabled	Auto	Disabled	Auto
Floppy Disk Access Control	R/W	Read Only	R/W	Read Only
Onboard Serial Port 1	3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled		3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled	
Onboard Parallel Port	Disabled 378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7		Disabled 378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7	
Parallel Port Mode	Normal EPP ECP ECP+EPP		Normal EPP ECP ECP+EPP	
ECP DMA Select	1 3		1 3	
Onboard Game Port	Disabled 200H-207H 208H-20FH		Disabled 200H-207H 208H-20FH	
Onboard MIDI I/O	Disabled 330H-331H 300H-301H		Disabled 330H-331H 300H-301H	
Onboard MIDI IRQ	3 4 5 7 9 10 11 12 14 15		3 4 5 7 9 10 11 12 14 15	
PCI Configuration				
Slot 1 IRQ	Auto NA 3 4 5 7 9 10 11 12 14 15		Auto NA 3 4 5 7 9 10 11 12 14 15	

Power メニュー画面

項目	購入時の設定			変更内容		
Power Management	Max Saving	Min Saving	Disabled User Define	Max Saving	Min Saving	Disabled User Define
Video Off Option	Suspend->Off	Always On		Suspend->Off	Always On	
Video Off Method	V/H SYNC+Blank	DPMS Standby	DPMS Suspend	V/H SYNC+Blank	DPMS Standby	DPMS Suspend
	DPMS OFF	Blank Screen		DPMS OFF	Blank Screen	
HDD Power Down	Disabled	()Min	Disabled	()Min
Suspend Mode	Disabled	()Min/Hour	Disabled	()Min/Hour
PWR Button < 4 Secs	Soft Off	Suspend		Soft Off	Suspend	
Power Up Control						
AC PWR Loss Restart	Disabled	Enabled	Previous State	Disabled	Enabled	Previous State
PWR Up On External	Disabled Enabled			Disabled Enabled		
Modem Act:						
Wake On LAN or PCI Modem	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Automatic Power Up	Disabled	Everyday	By date	Disabled	Everyday	By date

Boot メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
() Removable Device	LegacyFloppy	Disabled	LegacyFloppy	Disabled
() IDE Hard Drive	Disabled	()	Disabled	()
() ATAPI CD-ROM	Disabled	()	Disabled	()
Boot Virus Detection	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Quick Power On Self Test	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Boot Up Floppy Seek	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

こんなときは

困ったときに
警告メッセージが表示されたら

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

コンピュータ本体の不具合



制限


電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.8「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。


現象

起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。


確認と対処

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行なった場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。


起動時の自己診断テスト終了後(OSの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、OSが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.130「警告メッセージが表示されたら」

起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.130「警告メッセージが表示されたら」

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。

 p.98「設定値をもとに戻すには」

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストで異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。


現象


起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter Password:

確認と対処

「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.102「Passwordの設定」

パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。

 p.38「キーボードを使う」

パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.139「CMOS RAMの初期化」

現象

起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。

- ・ DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- ・ Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- ・ Operating system not found




確認と対処

起動ディスクなどシステムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。

 p.122「HDDの不具合」

システムが登録されていないFDがFDDにセットしてある場合は、FDを抜いてください。

現象 ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処  +  +  を押してリセットします。


リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

 p.34「電源の切り方」

現象 「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。




確認と対処 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.136「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合

現象 正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない


確認と対処 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

省電力モードから復帰できない場合は、 +  +  を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

キーボードの不具合


現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 数値キーは  の状態により機能が変わります。

 p.38「キーボードを使う」

現象 どのキーを押しても応答がない。


確認と対処 キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.8「コンピュータの設置」

マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。


アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.34「電源の切り方」

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 日本語キーボードドライバの特性により、キートップに刻印されている一部の文字は入力できません。

 p.38「キーボードを使う」

OS上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。Windows上で次のキーボードが選択されていることを「コントロールパネル」-「システム」アイコン(Windows2000は、「キーボード」アイコン)をダブルクリックして確認します。

WindowsMe/Windows98 : 106日本語(A01)キーボード(Ctrl+英数)

Windows2000 : 101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード


マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.8「コンピュータの設置」

キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。


 p.34「電源の切り方」

現象

OSやアプリケーションソフトでマウスカーソルが表示されない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.8「コンピュータの設置」


MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

マウスのクリーニングを行ってください。

 p.134「マウスのお手入れ」

ディスプレイの不具合


現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処


コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードのスペースキーを押してください。電源ランプ点滅時は電源スイッチを押すと復帰します。

 p.73「省電力機能」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがコンピュータに正しく接続されているか確認してください。

 p.8「コンピュータの設置」

ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

ピープ音が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

確認と対処

ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。Windows Me/Windows 98の場合はSafeモードで、Windows 2000の場合はVGAモードで起動し直してみてください。

Safe モードでの
起動 (Windows
Me の場合)

WindowsMeをSafeモードで起動する方法は、次の通りです。Safeモードは、WindowsMeを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程度放置したあと、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**Ctrl** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示されたら、「3.Safemode」を選択し、**↵** を押します。

Safeモードでの
起動 (Windows
98 の場合)

Windows98をSafeモードで起動する方法は、次のとおりです。Safeモードは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**Ctrl** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、**↵** を押します。

VGAモードでの
起動 (Windows
2000 の場合)

Windows2000をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。
Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください
- 3 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「VGAモードを有効にする」を選択し、**↵** を押します。

FDDの不具合

現象

FDDに正常にアクセスできない。

確認と対処

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥
デバイスの準備ができていません。
[OK]

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

使用しているFDDが、本機で利用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。


 p.47「1.25MBのFDDを使用する」

別のFDDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDDに異常があることが考えられます。

別のFDDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」-「Mainメニュー画面」-「Legacy Diskette A」が「1.44 M, 3.5 in.」となっているか確認してください。

起動ディスクなどのシステムが組み込まれているFDDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 FDに書き込みできない。


確認と対処 ライトプロテクトされていないか確認します。
 p.46「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象 FDDから異常な音がする。

確認と対処 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

HDDの不具合

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処 HDDに問題が発生している可能性があります。IDE HDDの場合は、「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
 p.100「Mainメニュー画面」

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

CD-ROMドライブの不具合

- | | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現象 | セットしたCDにアクセスできない。 |
| 確認と対処 | <p>CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。</p> <p>CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。</p> <p>コンピュータに添付されていたCD-ROM(「ユーティリティCD」など)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。</p> <p>特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。</p> <p>セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。</p> |
| 現象 | CDをセットすると画面が開いてしまう。 |
| 確認と対処 | セットしたCDに自動再生機能があり、自動的に画面を開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や、×をクリックして、画面を閉じてから、「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブを右クリックして、[開く]を選択します。 |
| 現象 | セットしたCDが読み込めない。 |
| 確認と対処 | CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windows には音楽CDを再生するソフトウェアとして「Windows Media Player(CDプレーヤー)」が標準で添付されています。 |
| 現象 | 音楽用CDの音が聞こえない。 |
| 確認と対処 | ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。 |

アプリケーションソフトの不具合

現象 アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象 アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処 アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象 メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処 DIMMを増設した場合は、DIMMのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

拡張カード、周辺機器の増設に関する不具合

現象 拡張カード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処 増設した機器が対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

増設した機器のジャンプスイッチやディップスイッチの設定が正しいことを確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張カードで重複して設定していると、コンピュータは正しく動作しないことがあります。詳細は拡張カード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

Windows Me/Windows 98では、「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」-「システム」-「デバイスマネージャ」で、IRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。

Windows 2000では、「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」-「システム」-「ハードウェア」タブ - [デバイスマネージャ]で、IRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。

周辺機器を追加するために拡張カードを装着した場合、周辺機器と拡張カードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。

拡張カードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要な場合があります。拡張カードのマニュアルを確認してください。

拡張カードを使用するアプリケーションソフトが正しく実行されているか確認してください。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プリンタの不具合

現象

印刷できない。

確認と対処

プリンタの電源および印刷するための準備が完了していることを確認してください。

プリンタのディップスイッチまたはコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsでは、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。

確認と対処

内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

FAXモデムの不具合 (FAXモデム機能内蔵モデル)

現象 「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処 「スタート」「設定」「コントロールパネル」にある次の項目でモデムに関する事項を確認してみてください。モデムに問題がある場合はエラーメッセージが表示されます。

- ・ WindowsMeの場合

「モデム」「検出結果」タブのモデム(COM3)を選択して、[詳細]をクリックします。

- ・ Windows98の場合

「モデム」「検出結果」タブのモデム(COM3)を選択して、[詳細情報]をクリックします。

- ・ Windows2000の場合

「電話とモデムのオプション」「モデム」タブ [プロパティ]「診断」タブの[モデムの照会]をクリックします。

現象 インターネットへ接続できない

確認と対処 モジュラケーブルが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。

「ダイヤルアップネットワーク」-「ダイヤルのプロパティ」で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号、市外局番、トーンやパルスの設定も確認します。

次の方法でダイヤルの設定を変更してみてください。

- ・ WindowsMe/Windows98の場合

「コントロールパネル」「モデム」[プロパティ]「接続」タブの「接続オプション」で「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

- ・ Windows2000の場合

「コントロールパネル」「電話とモデムのオプション」「モデム」タブ [プロパティ]「ダイヤルの管理」で「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

ユーザー名や、パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。

- ・ 全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。
- ・ 大文字と小文字をきちんと区別しているか。
- ・ 数字とアルファベットを間違えていないか。たとえば、数字の0 とアルファベットのO。
- ・ ユーザー名とメールアドレスを混同していないか。
- ・ パスワードとメールパスワードを混同していないか。

ネームサーバのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

次の手順でネームサーバのIPアドレスを確認します。

・ WindowsMeの場合

- ①「ダイヤルアップネットワーク」「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
- ②「ネットワーク」タブ [TCP/IP設定]をクリックしてネームサーバアドレスを確認します。

・ Windows98の場合

- ①「ダイヤルアップネットワーク」「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
- ②「サーバーの種類」タブ [TCP/IP設定]をクリックして、「ネームサーバアドレス」を確認します。

・ Windows2000の場合

- ①「ネットワークとダイヤルアップ」「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
- ②「ネットワーク」タブ 「インターネットプロトコル」 [プロパティ]でDNSサーバアドレスを確認します。

原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合は、プロバイダの電話番号を変更してみます。接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときはこの方法で接続できる場合もあります。

次の理由で、接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。

- ・ 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
- ・ 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
- ・ プロバイダのサーバが停止している。

現象

V.90通信方式で通信できない。

確認と対処

回線状況によって、V.90通信方式で接続できない場合があります。V.90通信方式のほかにはx2方式がありますが、x2方式のモデムとは、V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。またお使いになっている、最寄りの電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合のみ、V.90通信方式で接続することができます。

PBX回線では、V.90通信方式では接続できません。V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。

現象

V.90、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

確認と対処

V.90、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げた状態で接続する場合があります。

現象

V.90、V.34通信方式対応モデムと接続しているのに、遅い通信速度で接続してしまう。

確認と対処

V.90、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げた状態で接続する場合があります。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内部の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明
BIOS ROM checksum error - System halted.	BIOS ROM内のアドレスF0000H-FFFFFHの領域に不具合があります。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。それでもこのエラーが生じるときは、内蔵リチウム電池の残量が少なくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してみてください。p.136「リチウム電池の交換」
CMOS BATTERY HAS FAILED	データ保持用の内蔵リチウム電池の残量が少なくなっており、交換が必要です。リチウム電池を交換してみてください。p.136「リチウム電池の交換」
CMOS CHECKSUM ERROR	CMOS RAM設定値のエラー検出のためのチェックサムと、実際の設定値のチェックサムが違っています。BIOS Setupユーティリティを実行してください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
FLOPPY DISK(S) fail(80)	FDDが初期化できません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
FLOPPY DISK(S) fail(40)	BIOS Setupユーティリティで指定したFDDのドライブタイプと、装着されているFDDが異なっています。BIOS Setupユーティリティを起動し、FDDのドライブタイプを正しく設定し直してください。
Hard Disk(s) fail(80)	HDDの初期化に失敗しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(40)	HDDコントローラに異常が見つかりました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(20)	HDD初期化ができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(10)	HDDのキャリブレーションができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(08)	HDDのセクタのベリファイができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Keyboard error or no keyboard present	キーボードを初期化できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。コンピュータの起動中はキーボードのキーは押さないでください。意図的にキーボードなしで使用する場合には、BIOS Setupユーティリティで、エラーチェックの設定を「Halt On: All But Keyboard」(キーボード関連以外のエラーチェックを行う)に設定します。これで、キーボードが接続されていなくてもコンピュータは正常に起動します。

警告メッセージ	説 明
Memory test fail	メモリのテスト中にエラーが発生しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details	電源電圧に異常が発生しました。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。



付 録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、
HDDを購入時の状態に戻す方法や仕様
などについて説明しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。

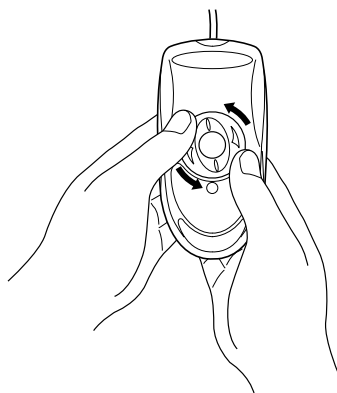
クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1

マウス底面のボールフレームを外します。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



2

マウスボールを取り出します。

マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

CR2032 または同等品



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。


マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



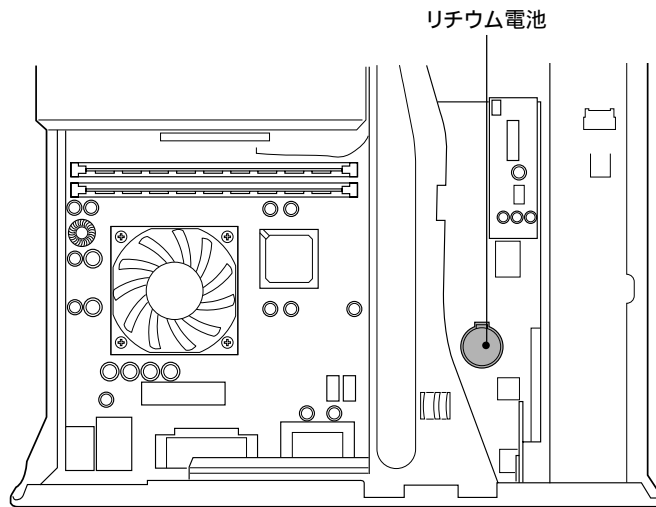
拡張カードやDIMMの取り付け・取り外し、内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

リチウム電池の交換は、次の手順で行います。作業は、コンピュータを横置きにして行ってください。

- 1 本体カバーを取り外します。必ず電源コードも外します。

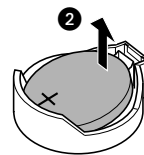
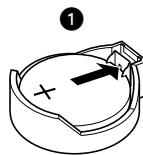
 p.84「本体カバーの取り外し」

- 2 リチウム電池の位置を確認します。
リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。

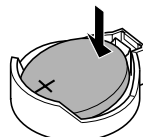






- 3 リチウム電池を抜きます。

- ① 電池ホルダの留め金を押します。(電池ホルダの形状は、機種により違う場合があります。)
- ② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。



- 4 新しいリチウム電池を取り付けます。
刻印面(+ 側)が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。
取り付ける時には、「カチッ」と音が鳴ります。



- 5 本体カバーを取り付けます。
 p.85「本体カバーの取り付け」
- 6 コンピュータを使用できるように、取り外した本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。
- 7 コンピュータの電源を入れます。 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.95「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 8  を押してSetup Defaultsを実行します。
- 9 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 10 「Exitメニュー」画面 「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして、コンピュータが起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。



小さなお子様手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや、感電・火災の原因となります。










拡張カードや DIMM の取り付け・取り外し、内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って 10 分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.110「BIOSの設定値」

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。

- 1 本体カバーを取り外します。
 p.84「本体カバーの取り外し」
- 2 リチウム電池を外します。
 p.136「リチウム電池の交換」
- 3 約1分間放置します。
- 4 リチウム電池を取り付けます。
 p.136「リチウム電池の交換」
- 5 本体カバーを取り付けます。
 p.85「本体カバーの取り付け」
- 6 コンピュータを使用できるように、取り外した本体背面のケーブル類を接続します。
- 7 コンピュータの電源を入れます。 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.95「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 8  を押してSetup Defaultsを実行します。
- 9 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 10 「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」を選択して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

ATコマンドの使用

(FAXモデム機能搭載モデル)

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムには、モデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。本機で使えるATコマンドの一覧(Manual.htm)は、添付の「リカバリCD」(Windows2000は、「リカバリCD Disc2」)の「MODEM」フォルダにPDFファイルとして登録されています。(英文)

ATコマンドの使用

通信ソフトウェアでモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。

WindowsMeの場合

「スタート」「設定」「コントロールパネル」「モデム」アイコン [プロパティ]「接続」タブ [詳細設定]「追加設定」

Windows98の場合

「スタート」「設定」「コントロールパネル」「モデム」アイコン [プロパティ]「接続」タブ [詳細]「追加設定」

Windows2000の場合

「スタート」「設定」「コントロールパネル」「電話とモデムのオプション」アイコン「モデム」タブ [プロパティ]「詳細」タブ「追加設定」

現 象	AT コマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を購入時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=V34」(V34)または 「AT+MS=V90」(V.90) 使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう)	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは、2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例:ATM0X3

FAXモデムカードを取り外すには

(FAXモデム機能搭載モデル)

本機のFAXモデム搭載モデルには、FAXモデムカードが装着されています。FAXモデムカードを取り外したい場合は、次の方法で取り外すことができます。作業を行う前に、必ずp.83「作業時の注意」をお読みください。





電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。

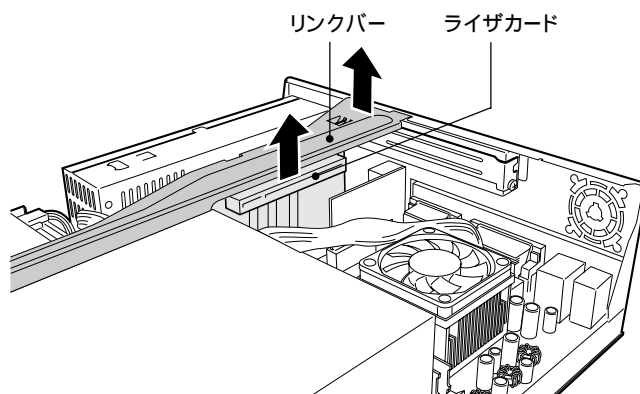


拡張カードや DIMM の取り付け・取り外し、内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って 10 分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

FAXモデムカードの取り外し

FAXモデムカードの取り外し方は、次のとおりです。作業は、コンピュータを横置きにして行ってください。

- 1 本体カバーを取り外します。
 p.84「本体カバーの取り外し」
- 2 リンクバーを持ち上げて取り外し、ライザーカードをメインボードから引き抜きます
拡張カードを装着している場合は、先に拡張カードを取り外します。
 p.90「拡張カードの取り外し」



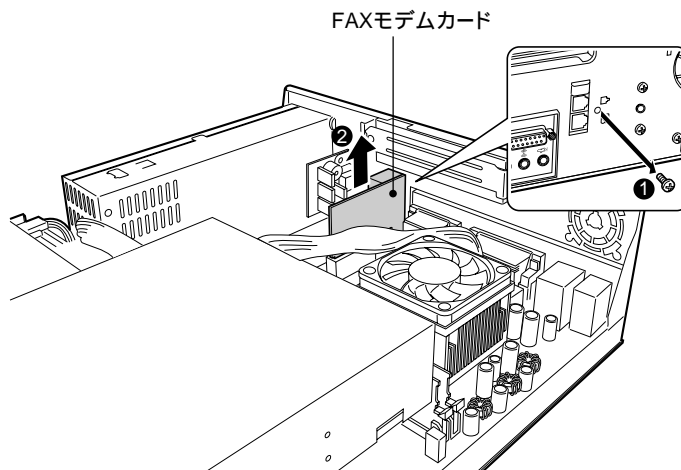
3

FAXモデムカードを取り外します。

① 本体とFAXモデムカードを固定している本体背面のネジ 1本 を外します。

② FAXモデムカードをスロットから引き抜きます。


FAXモデムカードの端子部に無理な力がかからないよう、ゆっくり引き抜きます。



4


リンクバーとライザカードを取り付けます。

手順2で拡張カードを取り外した場合は、拡張カードを取り付けます。

 p.90「拡張カードの取り付け」

5

本体カバーを取り付けます。

 p.85「本体カバーの取り付け」

6

コンピュータを使用できるように、取り外した本体背面のケーブル類を接続します。


HDDを購入時の状態に戻す

本機は、HDDを購入時の状態に戻すことができます。何らかの原因で、Windowsが起動しなくなったり、正常に動作しなくなったりした場合などに、購入時の状態に戻すことで問題が解決することがあります。



制限

HDDを購入時の状態に戻した後は、バックアップディスクを作成することができません。購入時の状態に戻す前に、必ずバックアップディスクを作成しておいてください。

 p.23、p.27、p.31「バックアップディスクの作成」

必要なメディア

HDDを購入時の状態に戻すには、次のメディアが必要です。

リカバリCD

Windowsと各種デバイスドライバが登録されているCD-ROMです。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

ユーティリティCD

VirusScan for Windowsが登録されているCD-ROMです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

必要なドライバディスクは、お使いになるOSおよびシステム構成によって異なります。

HDDを購入時の状態に戻す順番

次の順番でHDDを購入時の状態に戻します。

リカバリの実行 (p.148)





「リカバリCD」を使用して、HDDのフォーマット作業およびWindowsと一部のデバイスドライバのインストール作業を自動で行います。


Windowsのセットアップ



購入時に行った「Windowsのセットアップ」をもう一度行います。お客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。

WindowsMeインストールモデル  p.21

Windows98インストールモデル  p.25

Windows2000インストールモデル  p.29

マウスドライバのインストール (p.150)





「マウスドライバCD」を使用して、マウスドライバのインストールを行います。


モデムドライバのインストール (FAXモデム機能搭載モデルのみ)



「リカバリCD」を使用して、モデムドライバのインストールを行います。

WindowsMeインストールモデル  p.151


Windows98インストールモデル  p.152


Windows2000インストールモデル  p.153


セットアップ終了後の作業



セットアップ終了後の各種設定などを行います。

WindowsMeインストールモデル  p.24

Windows98インストールモデル  p.28

Windows2000インストールモデル  p.31

各種ドライバのインストール (p.154)

プリンタやUSB機器などを接続している場合は、デバイスドライバのインストールを行います。

HDDを購入時の状態に戻す前の注意



制限

本機で使用しているリカバリCDは、Windowsとドライバ類を同時にインストールします。Windowsのみをインストールすることはできません。
弊社製以外のBIOSを使用すると、HDDを購入時の状態に戻すことができません。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成がつぎのようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ : FDD


Cドライブ : HDD(基本MS-DOS領域)

Dドライブ : CD-ROMドライブ

リカバリの実行

HDDを購入時の状態に戻す前に、必ず次の点を確認してください。

リカバリを実行すると、バックアップディスクを作成することができなくなります。「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行し、必ずバックアップディスクを作成しておいてください。

 p.23、p.27、p.31「バックアップディスクの作成」

リカバリを実行すると、HDDがフォーマットされ、Cドライブのデータはすべて消去されます。HDD上の重要なデータは、FDなどにバックアップしておいてください。

HDDにDドライブ以降の領域を作成してある場合は、リカバリを実行する前にDドライブ以降に登録されている重要なデータをFDなどにバックアップしておいてください。リカバリ実行中にトラブルが発生した場合、Dドライブ以降の領域が消滅する可能性があります。

購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムを使用してWindowsをインストールしています。購入後にファイルシステムを変更しても、リカバリを実行すると、FAT32ファイルシステムでWindowsがインストールされます。

「リカバリCD」は、本機以外のコンピュータでは使用できません。

リカバリ実行中は、「リカバリCD」を抜かないでください。

インストール全般

本章の手順は、購入時のシステム構成を前提に記載しています。本機を購入後に周辺機器を取り付けた場合は、手順が異なる場合があります。正常に購入時の状態に戻せない場合は、購入時のシステム構成に戻してリカバリを実行してください。

デバイスドライバのインストール

WindowsMe/Windows98インストールモデルの場合

FAXモデム機能搭載モデルを使用している場合やプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、「リカバリ実行 - 手順 7」の再起動時に「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。ここではインストールを行わないので「キャンセル」をクリックします。

拡張カードやプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、「HDDを購入時の状態に戻す」作業後に添付のマニュアルを参照してデバイスドライバのインストールを行ってください。

Windows2000インストールモデルの場合

FAXモデム機能搭載モデルを使用している場合やプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、「Windowsのセットアップ」終了後に「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されます。ここではインストールを行わないので「キャンセル」をクリックします。

拡張カードやプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、「HDDを購入時の状態に戻す」作業後に添付のマニュアルを参照してデバイスドライバのインストールを行います。

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに、「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、「リカバリCD」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

WindowsMe/Windows98インストールモデルの場合

C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows2000インストールモデルの場合

C:¥I386

セットアップ時の手順について

リカバリ実行後の「Windowsのセットアップ」手順が一部異なります。「お知らせの確認」およびバックアップディスクに関する画面は表示されません。

セットアップ終了後の作業

「セットアップ終了後の作業」の次の作業は、必要に応じて行ってください。これらの作業は、購入後電源を初めて入れたときに行う「Windowsのセットアップ」後に一度行っているため、通常は必要ありません。

WindowsMeインストールモデルの場合

WindowsMe起動ディスクの作成

Windows98インストールモデルの場合








Windows98起動ディスクの作成

Windows2000インストールモデルの場合

セットアップブートディスクの作成

リカバリの実行

次の手順でHDDを購入時の状態に戻します。

- 1 コンピュータの電源を入れて、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 - ① コンピュータの電源を入れて、 を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
 p.95「BIOS Setupユーティリティの起動」
 - ② メニュー画面が表示されたら  を数回押し、「Boot」メニュー画面を表示します。
 - ③ 「ATAPI CD-ROM」を選択して  を数回押し、「ATAPI CD-ROM」を一番上に移動します。
- 2 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
 - ①  を押して、「Exit」メニューに移動し、「Exit Saving Change」が選択されている状態で  を押します。
 - ② 「Setup Confirmation」画面が表示されたら、[Yes]が選択されている状態で  を押します。
- 4 コンピュータが起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、[続ける]をクリックします。
- 5 「警告」画面が表示されます。[はい]をクリックします。
- 6 ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーには、10分程かかります。「リカバリCD」が2枚添付されている場合は、画面の指示に従って「リカバリCD Disc2」をセットし、リカバリの実行を続行します。
- 7 「コンピュータの再起動」画面が表示されたら、CD-ROMドライブから「リカバリCD」を抜いて[再起動]をクリックし、コンピュータを再起動します。
- 8 コンピュータの再起動時に「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、手順1で変更した「ATAPI CD-ROM」の起動順位をもとに戻します。

9 「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」で「Yes」を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

10 コンピュータが起動するとWindowsのセットアップが始まります。これでリカバリの実行は終了です。

続けてWindowsのセットアップに移ります。

再起動時にプラグアンドプレイディスプレイが検出された場合は画面の指示に従ってください。

拡張カードやプリンタなどの周辺機器を接続している場合に「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックします。HDDを購入時の状態に戻してから周辺機器に添付のマニュアルを参照してデバイスドライバのインストールを行ってください。

再起動の画面が表示された場合は再起動します。

マウスドライバのインストール

マウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
正しくセットされると自動的にセットアップ画面が表示されます。
もし自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、[スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に「D:\SETUP」と入力し、[OK] をクリックします。
- 2 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 4 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックを付けて[完了]をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい] をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。

FAXモデムドライバのインストール

(Windows Meインストールモデル)

FAXモデムドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 [更新]をクリックします。
- 5 「次の新しいハードウェアが見つかりました PCI Card」と表示されたら、「ドライバの場所を指定する」にチェックマークを付けて[次へ]をクリックします。
- 6 「検索場所の指定」にチェックマークを付けて次のとおり入力し、[次へ]をクリックします。
D:¥MODEM¥WINME
- 7 「デバイス用のドライバファイルの検索:」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 8 「...のインストールが完了しました。」と表示されたら、CD-ROMドライブから「リカバリCD」を抜き、[完了]をクリックします。
- 9 [スタート]-「Windowsの終了」をクリックし、「再起動」を選択して[OK]をクリックします。
Windowsが再起動したら、FAXモデムドライバのインストールは終了です。

FAXモデムドライバのインストール

(Windows 98 インストールモデル)

FAXモデムドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 [更新]をクリックします。
- 5 「次の新しいドライバを検索しています:PCI Card」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 6 「検索方法を選択してください。」と表示されたら、「使用中のデバイスに最適な...」にチェックマークを付けて[次へ]をクリックします。
- 7 「検索場所の指定」にチェックマークを付けて次のとおり入力し、[次へ]をクリックします。
D:¥MODEM¥WIN98
- 8 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 9 「...ソフトウェアがインストールされました。」と表示されたらCD-ROMドライブから「リカバリCD」を抜き、[完了]をクリックします。
「ディスクの挿入」画面が表示された場合は、次のとおり入力して[OK]をクリックします。
D:¥MODEM¥WIN98
- 10 [スタート]-「Windowsの終了」をクリックし、「再起動する」にチェックマークを付けて[OK]をクリックします。
Windowsが再起動したら、FAXモデムドライバのインストールは終了です。

FAXモデムドライバのインストール

(Windows 2000インストールモデル)

FAXモデムドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc2」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「ハードウェア」タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。
- 5 「その他のデバイス」の下にある「PCI Device」をダブルクリックします。
- 6 「PCI Deviceのプロパティ」画面が表示されたら、[ドライバの再インストール] をクリックします。
- 7 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 8 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」にチェックマークを付けて [次へ] をクリックします。
- 9 「ハードウェアの種類」から「モデム」を選択して [次へ] をクリックします。
- 10 [ディスク使用] をクリックして「製造元のファイルのコピー元」に次のとおり入力し、[OK] をクリックします。
D:¥MODEM¥WIN2K
- 11 「モデル」から「56K ボイスモデムライザ」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 12 「デバイスドライバのインストールの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。

- 13 「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。
- 14 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら「リカバリCD」をCD-ROMドライブから抜き「完了」をクリックします。
- 15 「56K ボイスモデムライザのプロパティ」画面が表示されたら、「閉じる」をクリックします。
- 16 「スタート」-「シャットダウン」をクリックし、「再起動」を選択して「OK」をクリックします。
Windowsが再起動したら、FAXモデムドライバのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お客様がお使いになる仕様によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

USB 対応機器を使用する場合 : 機器に添付のドライバ

プリンタを使用する場合 : プリンタに添付のドライバ

HDD領域の変更

MS-DOS領域の種類

MS-DOS領域には、「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合には必要になります。

Windowsを使用する場合には、これらの領域は「C」ドライブや「D」ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。

基本MS-DOS領域は、必ず「C」ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて「C」ドライブとなります。これに対して、「C」「D」「E」ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして分けられ、「D」「E」などの論理ドライブになります。

基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

基本MS-DOS領域のみを作成した場合

基本MS-DOS領域 「C」ドライブ

基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合

基本MS-DOS領域 「C」ドライブ	拡張MS-DOS領域
	論理MS-DOSドライブ 「D」ドライブ

基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合

基本MS-DOS領域 「C」ドライブ	拡張MS-DOS領域		
	論理MS-DOS ドライブ 「D」ドライブ	論理MS-DOS ドライブ 「E」ドライブ	論理MS-DOS ドライブ 「F」ドライブ

HDD領域の変更

HDD領域の変更は、MS-DOS領域のドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したい場合に行います。通常は、HDD領域の変更を行う必要はありません。

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を作成しなくてはなりません。

HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。



領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめFDなどにバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

MS-DOS領域の削除

最初に既存の領域を削除します。HDD領域は「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除します。

MS-DOS領域の作成

使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域は「基本MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」の順番で作成します。

MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMAT コマンドを使用します。

FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは、「リカバリCD」に登録されています。

大容量ディスク サポートとは

FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクのサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。FAT32ファイルシステムでは、どんな容量のHDD領域でも1つのHDD領域として使用できます。本機の購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムを使用してWindowsがインストールされています。購入後にファイルシステムを変更しても、リカバリを実行すると、ファイルシステムは購入時のFAT32ファイルシステムに上書きされます。


領域をアクティブ にする

FDISKコマンドを使用して、複数の領域を作成する場合は、アクティブ領域(OSをインストールする領域)の設定を忘れずに行ってください。アクティブ領域の設定を行っていないとWindowsをインストールすることができません。

既存領域の削除

次の方法でコンピュータ起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

起動方法

- 1 BIOS Setupユーティリティを起動して、CD-ROMの起動順位を1番に変更します。
 - ① コンピュータの電源を入れて、**[Delete]** を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
 p.95「BIOS Setupユーティリティの起動」
 - ② メニュー画面が表示されたら、**[→]** を数回押して、「Boot」メニュー画面を表示します。
 - ③ 「ATAPI CD-ROM」を選択して**[+]** を数回押し、「ATAPI CD-ROM」を一番上に移動します。
- 2 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 3 BIOS Setupユーティリティを終了します。
 - ① **[→]** を押して、「Exit」メニューに移動し、「Exit Saving Changes」が選択されている状態で**[↵]** を押します。
 - ② 「Setup Confirmation」画面が表示されたら、[Yes]が選択されている状態で**[↵]** を押します。
- 4 コンピュータが起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、[キャンセル]をクリックします。
- 5 画面左上にコマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。


作業が終了したら忘れずに「BIOS Setupユーティリティ」で起動順位をもとに戻しておいてください。

既存領域の 削除

- 1 コマンドプロンプト (A:¥>) が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますが (Y / N)」と表示されます。 または を押して を押します。
Windowsをインストールする領域を作成する場合は「Y」を選択します。
- 3 処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。 を押してから を押します。
- 4 「MS-DOS 領域または拡張MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。
基本MS-DOS領域は、拡張MS-DOS領域があると削除できません。「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除することができます。
ここでは基本MS-DOS領域を削除する手順を説明します。(基本MS-DOS領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。)
 を押してから を押します。
- 5 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して を押します。
- 6 削除する領域のボリュームラベルを入力し、 を押します。
画面上部に表示されている領域の情報で「ボリュームラベル」を確認してください。「ボリュームラベル」が空白の場合は何も入力せず を押します。
- 7 確認メッセージが表示されたら、 を押して を押します。
基本MS-DOS領域が削除されます。
- 8 を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。
領域を作成する場合は、「MS-DOS領域の作成 (p.160) 手順4」に移ります。
- 9 FDISKを終了する場合は、 を押します。
- 10 コマンドプロンプト (A:¥>) が表示されます。
これでMS-DOS領域の削除は終了です。

MS-DOS領域の作成

基本MS-DOS 領域の作成


- 1 「リカバリCD」を使ってコンピュータを起動します。
 p.158「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト (A:¥>) が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。
 または を押して を押します。
Windowsをインストールする領域を作成する場合は、「Y」を選択します。
- 4 処理メニューから「1. MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 5 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 6 「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…」とメッセージが表示されます。
最大サイズは、大容量ディスクサポートを行った場合は全容量、行っていない場合は2GBです。

7 を入力した場合と を入力した場合で次のように作業が異なります。

を入力して を押した場合

基本 MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。FDISKを終了させてから + + を押して、コンピュータを再起動します。

大容量ディスクサポートを行った場合は、再起動後にフォーマットを行います。ただし、作成した領域にWindowsをインストールする場合は、フォーマットを行う必要はありません。Windowsのインストールを行ってください。

 p.148「リカバリの実行」

大容量ディスクサポートを行っていない場合に、拡張MS-DOS領域を作成するには、再起動後に手順12に進みます。

を入力して を押した場合


を押すと「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを入力し、手順8に進みます。

8 基本 MS-DOS 領域が作成されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

9 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。 を押してから を押します。







10 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。 を押してから を押します。

11 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

- 1 2 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 3 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 4 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。MS-DOS以外のOSをインストールするような場合を除いて、ここではそのまま を押します。
- 1 5 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。
- 1 6 「論理ドライブのサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを入力し、を押します。
- 1 7 すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、を数回押して、FDISKを終了します。
- 1 8 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。
これでMS-DOS領域の作成は終了です。Windowsをインストールする領域(Cドライブ)以外の領域は、再起動後フォーマットを行ってください。
 p.163 「MS-DOS領域のフォーマット」
Windowsのインストールはp.144「HDDを購入時の状態に戻す」をご覧ください。

MS-DOS領域のフォーマット

HDD領域の変更をした場合は、各領域のフォーマットが必要です。フォーマットの手順は、次のとおりです。

- 1 「リカバリCD」を使ってコンピュータを起動します。
 p.158「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。(Dドライブをフォーマットする場合)
FORMAT D: (はスペースを意味します。)
- 3 「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、
 を押して  を押します。フォーマットが開始されます。
- 4 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して  を押します。
必要のない場合は、そのまま  を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

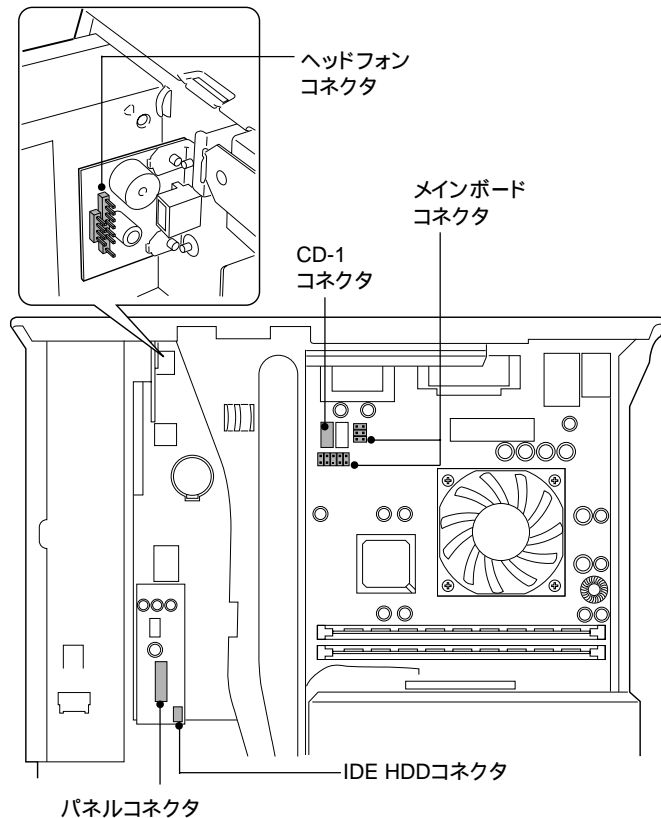
コンピュータ内部のケーブル接続

コンピュータ内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って、これらのケーブルを外してしまった場合には本項の内容に従って正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

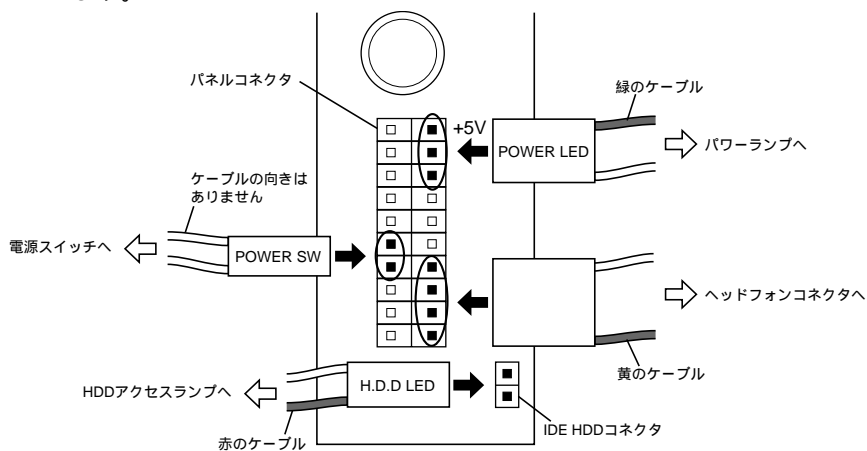
コネクタ位置
(メインボード上)



本体内部ケーブル との接続

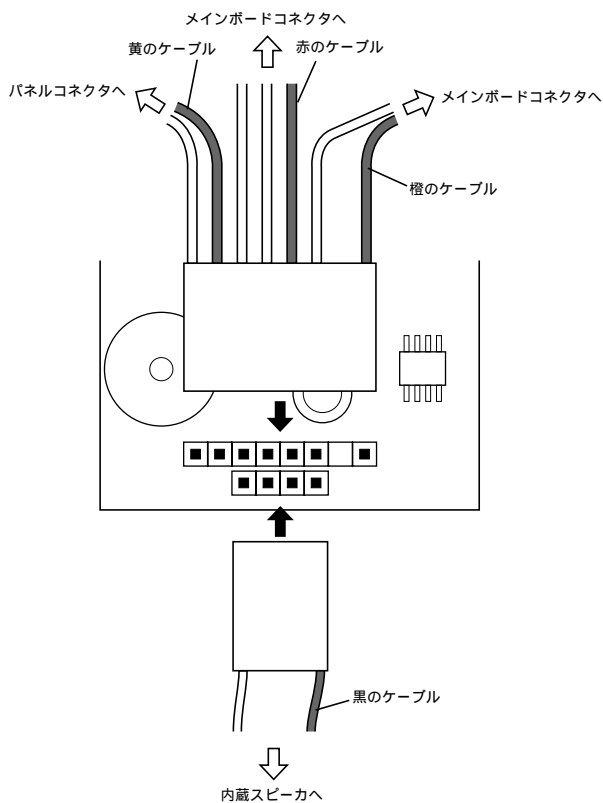
パネルコネクタおよびIDE HDDコネクタ

パネルコネクタおよびIDE HDDコネクタには、次のようにケーブルを接続します。



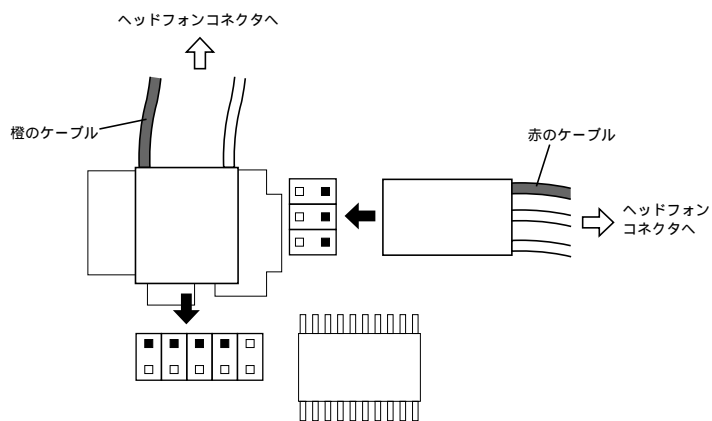
ヘッドフォンコネクタ

ヘッドフォンコネクタには、次のようにケーブルを接続します。



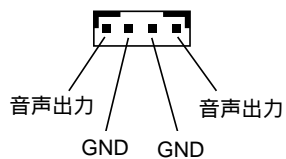
メインボードコネクタ

メインボードコネクタには、次のようにケーブルを接続します。



CD-1コネクタ

CDオーディオケーブルでCD-ROMドライブのCDオーディオコネクタと接続します。コネクタの向きに合わせて接続します。



機能仕様一覧

CPU	セカンドキャッシュ	Pentium IIIプロセッサ 256KB	Celeronプロセッサ 128KB
	ROM	Award BIOS	
メモリ	メインメモリ	最大512MBまで搭載可能	
ビデオコントローラ		Intel810E内蔵3Dグラフィックス	
サウンドコントローラ		AC'97準拠	
キーボード		日本語対応106キー	
マウス		ホイール付きPS/2マウス	
記憶装置	内蔵FDD	3.5型FDDを1基内蔵 3モード対応1.44MB/1.25MB/720KB	
	内蔵HDD	IDE HDD1基内蔵 Ultra ATA/66対応	
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵 最大48倍速	
インターフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)	
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)	
	VGAインタフェース	1(アナログRGB D-SUB 15ピン)	
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	サウンドインタフェース	ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、 マイク入力コネクタ×1、ゲームポート/MIDIコネクタ×1	
	USBインタフェース	4(本体前面×2、本体背面×2)	
	ネットワークインタフェース	1(RJ-45 10Base-Tおよび100Base-TX自動認識)	
	FAXモデムインタフェース	1(RJ-11 V.90対応)FAXモデム機能搭載モデル	
ドライブベイ	3.5型ドライブベイ	1(FDDで使用済み)	
	5.25型ドライブベイ	1(CD-ROMドライブで使用済み)	
	HDDドライブベイ	1(HDDで使用済み)	
外部拡張スロット		1(PCI対応スロット(ボード長130mmまで装着可能))	
カレンダー時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)	
電源容量		121W	
入力電圧		AC 100 V ± 10% 50/60 Hz	
温湿度条件		温度: 10 ~ 35	
		湿度: 20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)	
外形寸法		本体: 約290(幅) × 367(奥行) × 104(高さ) mm(突起部除く)	
重量		本体: 約6.2Kg(本体のみ)	
消費電力		待機時消費電力34W(最大80W)	

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポートのことです。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。
= BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

類義語 CMOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラムです。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

Boot(ブート)

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。起動するとも言います。

CPU

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

DMA転送

Direct Memory Accessの略。CPUを介せずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

使用例 DMA転送により高速なデータの入出力が可能です。

DMAチャネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のことです。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャネルを使用するように設定する必要があります

DRAM(ディーラム)

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。DRAMにはFastPageモード、EDOモードなどの種類があります。

FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステムのことです。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます(FAT16ファイルシステムでは2GBまで)。

I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイス間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけではなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

【使用例】 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号のことです。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

【使用例】 サウンドカードではIRQ7を使用します。

ISDN

NTTが提供する高速デジタル回線のことです。普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータ送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、一本で二回線分を使用することができます。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

OS

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种。一般的に採用されている拡張バスです。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張カードに使用されます。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SCSI

Small Computer System Interfaceの略。コンピュータと周辺装置間のデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。良く使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

【使用例】 SCSIインタフェースのHDD(SCSI HDD)

SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

USB

Universal Serial Busの略。比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格のことです。USB対応のキーボードやマウス、ジョイスティックなどが接続されます。

Ultra ATA/66

IDEインタフェース上において66MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

URL(ユーアールエル)

Uniform Resource Locatorの略。インターネット上の情報資源(文書や画像など)の場所を示す記述方式で、インターネットのアドレスのことを言います。

VGA

640×480ドット16色を表示するDOS/V機の基本的なビデオ表示機能です。Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

アカウント

ネットワーク上で利用者を識別するための名前(記号や番号)のことです。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

【使用例】 HDDにアクセスする。= HDDのデータを読み書きします。

アクセスポイント

インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

【使用例】 HDDアクセスランプ

アップロード

手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

【使用例】 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

【使用例】 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入力出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

【使用例】 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

オフライン

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

オンライン

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

解像度

画面表示の細かさのことです。

【使用例】 1024×768ドットの解像度で表示する。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

【類義語】 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

拡張スロット

拡張カードを装着するためのスロットです。拡張カードには、AGPバス用拡張カード、PCIバス用拡張カードなどがあります。

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

【使用例】 マウスカーソル

起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

【類義語】 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

【使用例】 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

【使用例】 次のコマンドを入力してください。

サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

【使用例】 システムを起動する。= コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

ジャンパスイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのことです。ジャンパスイッチの設定はジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

ターミナルアダプタ(TA)

コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

ダイヤルアップ接続

モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するためにプロバイダに接続することを言います。

ダウンロード

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

ディスプレイ

表示装置のことです。

【類義語】 CRTディスプレイ、モニタ

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

【使用例】 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリ。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で、高速処理を行えるようにします。

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

【使用例】 PCIバス、AGPバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

【使用例】 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

【使用例】 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

ブラウザ

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。

拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

【類義語】 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

ポリウムラベル

HDDや、FDに付けた名称のこと。

メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

【使用例】 メインメモリは64MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

【類義語】 システム資源

ログオン

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

【類義語】 ログイン/ログアウト

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

1.25MBフォーマットFD	47
2HD(FDD)	43
2DD(FDD)	43
3.5 型FDD	6

B

BIOSの設定	93
BIOS Setupユーティリティの操作	95
Mainメニュー	100
Advancedメニュー	104
Powerメニュー	106
Bootメニュー	108
Exitメニュー	109
BIOSセットアップユーティリティの終了	99

C

CapsLock	40
CD-ROM	49
CD-ROMイジェクトホール	6
CD-ROMイジェクトボタン	6
CD-ROMドライブ	6
~の不具合	123
CD-1コネクタ	164
CMOS RAM	94
CMOS RAMの初期化	139
COAラベル	3
CPU	4

D

DIMM (メモリ)	86
~の不具合	125

F

FAT32ファルシステム	20
FAXモデム	58

~カードの取り外し	142
~の不具合	127
インターネットに接続する	60

FD (フロッピーディスク)	43
FDD (フロッピーディスクドライブ)	43
~の不具合	121

FDDアクセスランプ	6
FDDイジェクトボタン	6
FDISKコマンド	156
FORMATコマンド	163

H

HDD (ハードディスクドライブ)	48
~領域の変更	155
~の不具合	122
HDDアクセスランプ	6

I

IDE HDDコネクタ	164
-------------------	-----

M

MIDIコネクタ	7
MS-DOS領域のフォーマット	163
MS-IME	39

N

NumLock	40
---------------	----

P

Passwordの設定	102
-------------------	-----

S

Safeモード	119
Scroll Lock	40
Supervisor Password	102

U

USBコネクタ	79
User Password	102

V

VGA(モニタ)コネクタ	7
VGAモード	119
VirusScan for Windows	79

W

WindowsMe	(7)
~のセットアップ	21
~起動ディスクの作成	24
Windows98	(7)
~のセットアップ	25
~起動ディスクの作成	28
Windows2000	(7)
~のセットアップ	29
~セットアップブートディスクの作成	32
Windowsキー	38

50音順

あ

アイコン	(8)
アウトLOOKエクスプレス	69

い

インターネットに接続するには	60
インターネットエクスプローラ	69

う

ウィルス	79
------------	----

お

お気に入り（ホームページ）	70
お手入れ	134

か

解像度の変更	51
拡張カードの装着	89
拡張スロットの仕様	89
拡張MS-DOS領域	155

き

キーボード	38
~の接続	12
~の不具合	117
キーボードコネクタ	7
キーロック表示ランプ	40
起動方法	158
機能キー	38
機能仕様一覧	167
休止状態	73
強制取り出し（CD-ROM）	50

く

クリック	42
------------	----

け		ダブルクリック	42
警告メッセージ	130		
ゲームポート/MIDIコネクタ	7		
こ		て	
コンピュータウィルス	79	ディスプレイ	51
コンピュータ本体の不具合	114	~の接続	11
		~の不具合	119
さ		デスクトップ	(8)
サウンド機能	77	電源コードの接続	15
		電源コネクタ	7
		電源スイッチ	6
		電源の入れ方	16
し		電源の切り方	34
シリアルコネクタ	78	電源ランプ表示	74
仕様	167	添付ソフトウェア	5
省電力機能	73	電話回線	58
~に関する不具合	116	~への接続	14
す		と	
数値キー	38	ドラッグアンドドロップ	42
スーパーバイザーパスワード	102		
スクロール	42	に	
スタンバイ	73	日本語入力システム	38
スピーカの不具合	126	入力キー	38
せ		ね	
セットアップ	17	ネットワーク	
WindowsMeインストールモデル	21	~機能	78
Windows98インストールモデル	25	~に接続する	78
Windows2000インストールモデル	29	ネットワークコネクタ	7
セットアップブートディスクの作成	32		
た		は	
ダイヤルアップ接続	63	ハードディスクドライブ (HDD)	48
大容量ディスクサポート	157	~領域の変更	156
タスクバー	(8)	~の不具合	122
タブ	(8)	パスワード	102
		Supervisor Password	102

User Password	102
パネルコネクタ	164
パラレルコネクタ	78
ハングアップ	36
バックアップディスクの作成	
WindowsMeインストールモデル	23
Windows98インストールモデル	27
Windows2000インストールモデル	31

ひ

表示色の変更	51
--------------	----

ふ

プリンタの不具合	126
フロッピーディスクドライブ (FDD)	43
フロッピーディスク (FD)	43
プロバイダ	60

へ

ヘッドフォンコネクタ	164
ヘッドフォン出力コネクタ	6

ほ

ボタン	(8)
ボリューム	6
本体カバー	84
~の取り外し	84
~の取り付け	85
本体内部ケーブル	164

ま

マイク入力コネクタ	7
マウス	42
~ドライバのインストール	150
~のお手入れ	134
~の接続	11

~の不具合	118
-------------	-----

め

メインボードコネクタ	164
メール受信を使う	72
メモリ (DIMM) の不具合	125

ゆ

ユーザーパスワード	102
ユーティリティCD	144

ら

ライトプロテクト (FD)	46
ライン出力コネクタ	7
ライン入力コネクタ	7

り

リカバリCD	144
リセット	36
リチウム電池の交換	136

ろ

論理MS-DOSドライブ	155
--------------------	-----

Memo

Memo

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました但、万一誤り・お気付きの点 がございますたら、ご連絡 くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器などの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります但、当社といたしましては一切責任を負いかねますので ご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。

この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

本装置は、(社)電子情報技術産業協会(社)日本電子工業振興協会)のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows は 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Celeron は Intel Corporation の商標です。

Adobe Acrobat ReaderはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。

PS/2は International Business Machines の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



エプソン販売 株式会社



大豆油インキを使用しています。



このユーザーズマニュアルは古紙配合率100%再生紙を使用しています。



C77177001 02.08-15.15(SO)